

第 13 編 照 査

第13編 照 査 目 次

1. 目的	13-1
2. 構成	13-1
3. 留意事項	13-1
4. 関係機関協議	13-3
5. 照査フローチャート	13-4
6. 照査一覧表	13-5
6. 道路概略設計の照査一覧表.....	13-6
6. 道路予備設計（A）の照査一覧表.....	13-12
6. 道路予備設計（B）の照査一覧表.....	13-18
6. 道路詳細設計の照査一覧表.....	13-24
6. 平面交差点詳細設計の照査一覧表.....	13-31
6. 立体交差点予備設計の照査一覧表.....	13-37
6. 山岳トンネル詳細設計の照査一覧表.....	13-43

第 13 編 照 査

1. 目的

(1) 成果品の品質向上

社会資本整備を推進するうえで、建設コンサルタント業務の成果は、最も基礎的で重要な要素であり、その精粗が事業の完成に重大な影響を与えることになる。成果品の品質向上を図り、正確性を確保するために、受注者が、本照査要領を活用することにより設計の主要事項を系統的に把握するとともに、迅速な照査が可能となる。

(2) 基本的事項の統一による照査の効率化

本照査要領は、『詳細設計照査要領（国土交通省大臣官房技術調査課監修令和4年3月）』を基本としたものであり、国土交通省では全国統一的に義務付けられているものである。愛知県においてもこれを基に、基本事項の統一により照査の効率化を図る。

本書で掲載する設計内容は、『詳細設計照査要領（国土交通省大臣官房技術調査課監修令和4年3月）』に掲載されている下記の④⑤⑦を基本としつつ、各地の建設コンサルタント協会により発行されているものから①②③⑥を加えたものである。

- ①道路概略設計
- ②道路予備設計(A)
- ③道路予備設計(B)
- ④道路詳細設計（函渠工、擁壁工を含む）
- ⑤平面交差点詳細設計
- ⑥立体交差点予備設計
- ⑦山岳トンネル詳細設計

2. 構成

本要領の構成は、以下に示す内容で構成している。

(1) 照査フローチャート

設計業務の着手から完了までの流れについて、照査の観点から整理したものである。受注者が実施する主要な区切りと発注者・受注者双方の照査との関連を明示したものである。各設計ともに照査は同一の流れである。

(2) 照査項目一覧表

照査フローチャートに従って、設計の主要な区切り毎に受注者が実施すべき基本的照査項目を一覧表に整理したものである。作成は、基本条件の照査（照査①）、細部条件の照査（照査②）、成果品の照査（照査③）の主要な区切りの3段階毎に行うものとし、作成の手順は以下のとおりとする。

- ① 業務内容から判断して該当対象項目を抽出し、「該当対象欄」に○印を付す。
- ② 照査を完了した項目について「確認欄」に○印及び日付を記入し、「備考欄」に照査で確認した当該業務での検討・設計結果の内容を記入する。
- ③ 照査技術者及び管理技術者が確認する。
- ④ 発注者に提出し、照査状況の報告を行う。

3. 留意事項

- (1) 本照査要領は、設計の自由度を尊重するため、設計マニュアル的なものでなく、設計の基本に関する事項を体系的に記載し、各事項に対応する照査の完了を一目で把握できるものとしている。従って、照査手段、基準等との関連をはじめとする具体の照査内容については受注者側の判断によるものとする。
- (2) 照査要領に記載した照査項目は標準的な設計の基本事項である。各業務の業務内容、規模、重要度、特性に

応じて、適宜照査項目を追加することとする。また、照査項目の決定は、業務に着手する前だけでなく、業務の途中や段階ごとでも、必要に応じて追加し、打合せにより決定することとする。

- (3) 各照査段階において、照査内容が未定であったり、一度で確認が済まない場合や条件決定が順不同と、確認が済んだ事項に○印と日付を記入し、未確認項目が明確になるようにするものとする。
- (4) 愛知県発注の業務においては、照査報告書に本照査要領に基づき作成した資料を添付するものとする。
- (5) **6. 照査一覧表** に発注者側においても特に留意すべき項目をゴシック体太文字で表記した。ここでは、設計の内容に関わらず、代表的な項目の例を表に記載したので、常に念頭において業務を進めるとよい。また、手引きの代表的な関連箇所を【 】で表記した。

表 3.1 発注者側においても留意すべき事項の例

項目	主な内容
設計の目的、主旨	事業の目的、主旨、効果を把握した上で最適な設計か。 機能（事業の目的と合致、渋滞対策、線形改良等）と工費のバランスがとれているか。
設計条件	道路の機能（位置づけ、性格付け）を確認したか。 計画交通量、道路規格、設計速度、幅員構成を確認したか。 コントロールポイントとすべき物件を確認したか。 設計の起終点は明確になっているか。前後区間との整合は図れているか。 関連する事業や計画と整合がとれているか。（道路、河川、鉄道、他自治体、占有者事業、民間開発等） 支障物件（地下埋設物、電柱、信号等）の状況を把握したか。 貸与資料の不足、追加事項があるか。 現地立ち入りの留意事項を確認したか。（地権者との交渉状況等）
幾何構造・線形条件	設計条件を確認したか。 平面線形、縦断線形、幅員構成は、道路構造令はもちろん、安全性、円滑性等を確保しているか。【第2編】 幅員変化には無理がないか。【第6編11】
路線計画	適切な比較代替案の設定及び最適な路線選定が明確な理由付けとともにできているか。 交差道路、河川、鉄道等との交差は適切か。 重要構造物（橋梁、トンネル、擁壁、函渠等）の計画（構造物間の取り合い、配置、設計思想の統一等）は適切か。【第5編、第8編、第10編】
用排水工計画	排水条件の確認を行ったか。（水路管理者条件、流量計算等）【第5編第1章排水】 用排水系統、流末は確認したか。（水路管理者、流量計算等）【第5編第1章排水】
函渠工	設計方法は適正か。（慣用設計法の適用範囲の確認）【第5編第2章】 慣用設計法適用範囲外の場合の必要な地質データは取得したか。【第5編第2章2～3】 内空断面、平面形状、縦断勾配の設定は適正か。【第5編第2章4、6】
擁壁工	擁壁の工種選定は適切か。【第8編第4章1～3】
トンネル	内空断面は安定性、経済性を総合的に考慮したか。【第10編3.2】 坑門工位置・形式、掘削方式、換気方式は適正か。【第10編】
施工計画	工事完了日から逆算した工程表を作成の上、クリティカルポイントを明確にしたか。 工区分けは適切か。施工に必要な暫定施工、段階施工の漏れがなく、考え方は適切か。 施工性に問題はないか。施工時の道路、河川等の切り廻し計画は適正か。 必要な資機材を配置した施工計画になっているか。
環境	環境影響評価書またはその他環境調査の有無が確認されているか。 沿道の自然環境条件、生活環境を現地または要望等から確認したか。
協議関連資料	法規制について確認したか。【第13編4】 道路、河川、鉄道等の交差協議は実施したか。また協議結果が反映されているか。 公安協議は実施したか。また協議結果が反映されているか。 土捨場（搬出先事業者含む）、または土取場（搬入元事業者含む）との調整、位置・規模は確認したか。 地下占有企業者、電柱・信号管理者、地元市町村、その他公共施設管理者との協議は実施したか。また協議結果が反映されているか。

4. 関係機関協議

設計照査を行うポイントのひとつとして、関係機関協議がある。以下に、道路設計において一般的に生じる関係機関協議を整理する。計画、設計、施工の各段階において適切に協議を進め、円滑な事業推進を図ることが望ましい。

(1) 道路協議

当該設計区間の道路に交差、接続する道路等に関する、国土交通省、市町村自治体等の道路管理者との協議

(2) 交差物件との協議

河川、用排水、鉄道、上下水道、高圧電線など、当該道路に交差する物件の管理者との協議

(3) 公安委員会との協議

道路、交差点等の新設・改良にあたっての、公安委員会との協議（道路法 95 条の 2 協議）

(4) 占用物・埋設物との協議

上水道、下水道、電力線、通信線（NTT、有線、ケーブルテレビ）、ガス、警察管路、電柱、バス停施設などの道路占用物・埋設物に関する各占用者との協議

(5) 周辺法規制関係

当該道路の通過地域によっては、各種法律・県条例による規制等が指定されている場合があり、必要に応じ申請協議が必要となる。参考として、表 4.1 にその代表的な法規制等を示す。個別の法規制の区域については、担当課及び所定の図面等で確認を行うものとする。ただし、担当課は組織改正等で変更の場合があるので注意すること。

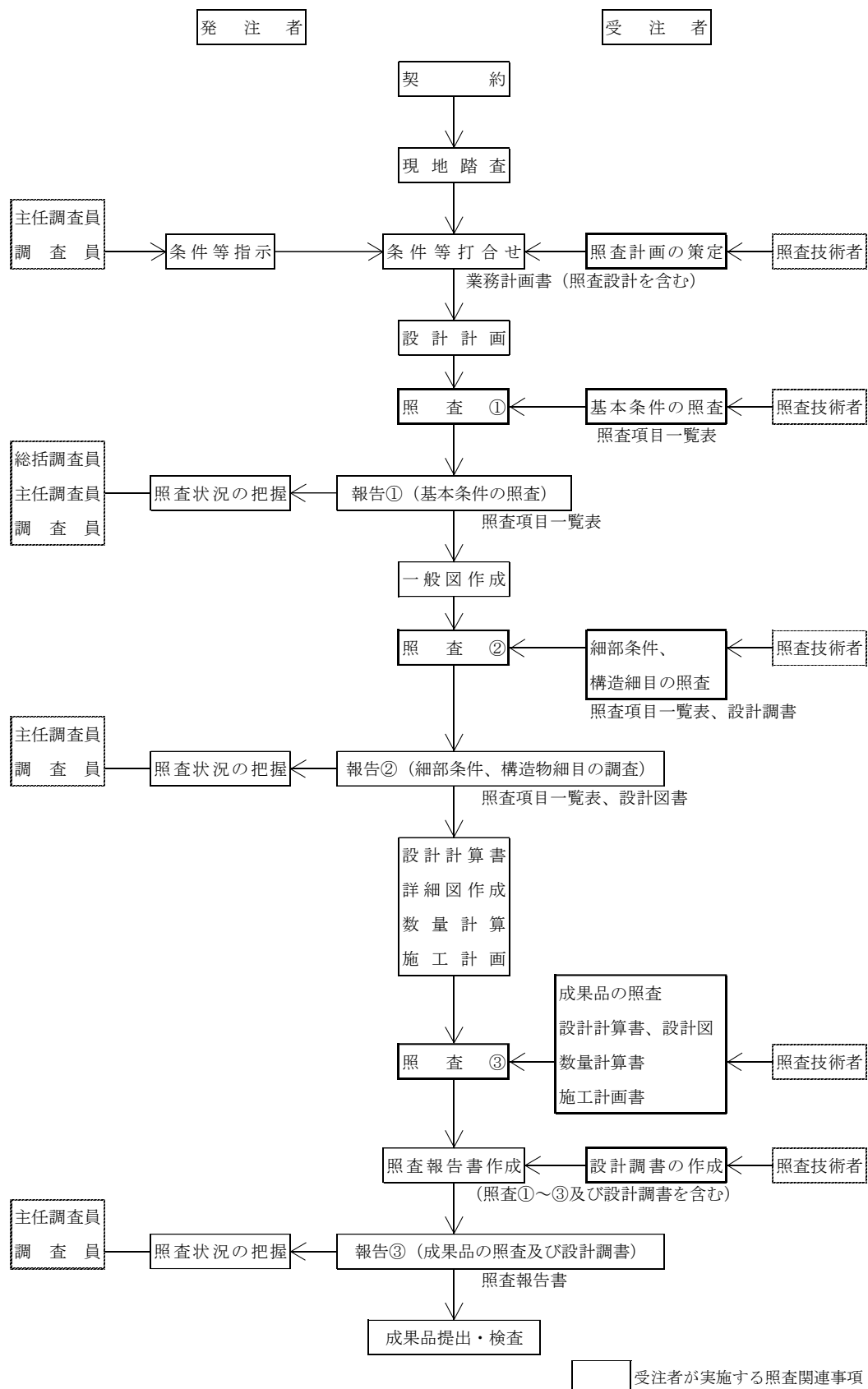
法規制の協議については、場合により 1 年を超えるなど長期間を要するものがある。また、手続き上の受付が年に数回に限られている場合もあるため、協議時期について十分に留意する必要がある。

表 4.1 代表的な法規制等

法規制等	根拠法令	愛知県担当課
都市計画（区域区分、地域地区等）	都市計画法	都市計画課
保安林	森林法	森林保全課
砂防指定地	砂防法	砂防課
地すべり防止区域	地すべり防止法	砂防課
急傾斜地崩落危険区域	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律	砂防課
宅地造成工事規制区域	宅地造成等規制法	建築指導課
河川保全区域	河川法	河川課
特定都市河川流域	特定都市河川浸水被害対策法	河川課
海岸保全区域	海岸法	港湾課
公有水面	公有水面埋立法	港湾課
自然公園	自然公園法	自然環境課
重要文化財、史跡、名称、天然記念物、等	文化財保護法、等	文化財保護室
農業振興地域	農業振興地域の整備に関する法律	農業振興課
農地	農地法	農業振興課
土地収用	土地収用法	用地課

（平成 23 年 3 月 時点）

5. 照査フローチャート



注 記 ※ 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。
 ※※ 行程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画書提出時に打ち合わせにより設定する。

図 5.1 照査フローチャート

6. 照査一覧表

設計内容	照査一覧表	ページ
道路概略設計	照査① 基本条件	13-6
	照査② 細部条件	13-8
	照査③ 成果品	13-10
道路予備設計 (A)	照査① 基本条件	13-12
	照査② 細部条件	13-14
	照査③ 成果品	13-16
道路予備設計 (B)	照査① 基本条件	13-18
	照査② 細部条件	13-20
	照査③ 成果品	13-22
道路詳細設計 (函渠工, 擁壁工を含む)	照査① 基本条件	13-24
	照査② 細部条件	13-27
	照査③ 成果品	13-29
平面交差点詳細設計	照査① 基本条件	13-31
	照査② 細部条件	13-33
	照査③ 成果品	13-35
立体交差点予備設計	照査① 基本条件	13-37
	照査② 細部条件	13-39
	照査③ 成果品	13-41
山岳トンネル詳細設計	照査① 基本条件	13-43
	照査② 細部条件	13-45
	照査③ 成果品	13-47

道路概略設計の照査一覧表

基本条
件
の
照
査
目
一
覧
表
(照 査 ①)

業 務 名 :

発 注 者 名 :

受 注 者 名 :

照 査 の 日 付 : 令 和 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	照査項目	照査内容	該当対象	照査① 確認	確認資料	備考
				確認日		
			該対象項目を抽出し ○印を記入	照査を完了 した項目に ついて○印 を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	詳細設計照査要 領の概要（6． その他記載等に あたっての留意 事項）を参照
1	設計の目的、主 旨、範囲	1) 設計の目的、主旨、範囲を把握したか。 2) 地域構造(自転車道整備ネットワークやバリアフリー特定経路等)、 関連計画(沿道開発、関連道路の改良計画等)等について把握した か。 3) 設計の内容、工程等について具体的に把握したか、特記仕様書との 整合は確認したか。または、管理表を提出し内容を発注者と確認し たか。 4) 技術提案がある場合は、業務計画書に技術提案の内容が反映されて いるか。				
2	貸与資料の確認	1) 貸与資料は最新版であるか確認したか。また、不足点及び追加事項 があるか確認したか。不足がある場合には、資料請求、追加調査等 の提案を行ったか。 2) 事務所、路線ごとに統一された基準要領があるか。 3) 基準・要領等があるか。また、最新版であるか確認したか。				
		1) 地形、地質、気象、用・排水、土地利用状況(用地)、保安林や土砂 災害指定地等の各種指定区域の有無を把握したか。また、道路排水 の接続先について確認したか。 2) 沿道状況(取付道路、取付坂路含む)、交通状況(自転車、歩行者含 む)、道路利用状況(通学路指定の有無、歩道橋、乗入部含む)、 河川状況等を把握したか。 3) 近接して施設及び人家等がある場合、盛土に伴う引込み沈下による 影響の懸念がないか確認したか。 4) 社会環境状況を把握したか。(日照、騒音、振動、電波状況、水質汚 濁、土壌汚染、動植物、井戸使用等) また、環境調査等の資料の 有無を確認し入手したか。 5) 台帳等を入力したうえで、支障物件の状況を把握したか。(地下埋設 物：下水、水道、ガス、電力、NTT、通信、共同溝 等及び架空線、 樹木、名勝、旧跡等) 6) 施工計画の条件に係わる現地状況を把握したか。(ヤード、工事用 水、濁水処理、工事用電力、工事用建物敷地、交通条件、進入路、 周辺関連工事の進捗状況等) 7) 施工済み構造物について工事完成図面は確認したか。また、現地状 況は整合しているか。 8) 発注者と合同で現地踏査を実施したか。				
3	現地踏査	1) 設計に使用する技術基準、参考図書や各自治体における条例等を 確認したか。また、最新版であるか確認したか。 2) 整備計画(暫定計画・部分供用の有無等)を確認したか。 3) 道路構造(道路区分、計画交通量、設計速度、横断面等)を確認した か。 4) コントロールポイント条件は整理されているか。 5) 法規制について確認したか。 6) 積雪寒冷地、およびその度が甚だしい地域の適用が適正か。 7) 文化財や地形・地質の特性を確認したか。 1) 成果品の仕様（電子納品を含む）、部数もついて確認したか。 2) 中間成果品の提出の必要性（時期、内容）について確認したか。				
4	設計基本条件					
5	成果品					
6	その他	1) 業務計画書は発注者の了解を得て提出したか。 2) 受注時のTECRISに關して客先確認を行い登録したか。				

※太字ゴシックの項目は、発注者側においても特に留意が必要な項目を示す。

道路概略設計
細部条件の照査項目一覧表
(照査②)

業務名：

発注者名：

受注者名：

照査の日付： 令和 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	照査項目	照査内容	照査②			確認資料	備考
			該当対象	確認	確認日		
			該当対象項目を抽出し〇印を記入	照査を完了した項目について〇印を記入	その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	詳細設計照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照
1	比較路線の選定	1) 比較路線の選定は適切か。 2) コントロールポイントへの対応は適切か。 3) 道路、河川、鉄道等関連事業と整合がとれているか。 4) 土地利用(計画含む)との整合はとれているか。 5) 生活環境への対応(騒音、振動、大気、日照等)は適切か。 6) 自然環境への対応(景観、動物、植物等)は適切か。 7) 長大構造物(橋梁、トンネル)の計画は適切か。 8) 現道との交差及び接続方法は適切か。 9) 地滑り、軟弱地盤等を選ける計画を検討したか。 10) 付け替え道路、水路、側道等の計画は適切か。 平面・縦断線形の採用値及び縦断・横断視距の確保は適切か(積雪寒冷地の適用の有無)。組み合わせは適正か。また、修正設計の場合、設計条件のどの部分が変更となったか確認したか。 道路線形の連続性、円滑性は妥当か。					
2	幾何構造、線形条件	1) 平面・縦断線形の採用値及び縦断・横断視距の確保は適切か(積雪寒冷地の適用の有無)。組み合わせは適正か。また、修正設計の場合、設計条件のどの部分が変更となったか確認したか。 2) 道路線形の連続性、円滑性は妥当か。					
3	平面・縦断・横断設計	3) 交差道路、河川、鉄道等との交差は適切か。 4) 合成勾配は適切か。 5) 土量バランスは適切か。 6) 路面排水の流末は適切か。 7) 高盛土、高切土への配慮は適切か。 8) 標準横断面図は適切か。 9) 長大法面への対応は適切か。					
4	路線評価	1) 路線評価の評価項目は適切か。 2) 概算事業費のオーダーは適切か。					
5	その他	1) 変更契約に伴う、TECRIS登録は必要か。 2) 変更契約に伴う、変更業務計画書は提出してあるか。					

※太字ゴシックの項目は、発注者側においても特に留意が必要な項目を示す。

道路概略設計
成果品の照査項目一覧表
(照査③)

業務名： _____

発注者名： _____

受注者名： _____

照査の日付： 令和 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No.	照査項目	照査内容	照査③		確認資料	備考
			該当対象	確認		
				確認日		
			照査を完了した項目について○印を記入	その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	詳細設計照査要領の概要「6」、その他記載等に当たったの留意事項を参照
1	計画概要書	1) 特記仕様書等の内容は反映されているか。				
		2) 打合せ事項は反映されているか。				
		3) 路線選定の経緯、概要等が整理され、最適ルートの決定根拠は明確か。				
		4) 計画地域の現況及び将来計画は整理されているか。				
		5) 社会的、自然的、文化的コントロール要因は整理されているか。				
	6) 今後の課題、留意点は整理されているか。					
	設計図	1) 打合せ事項は反映されているか。				
		2) 縮尺、用紙サイズ等は共通仕様書、または、特記仕様書と整合しているか。				
		3) 主要構造物（橋梁、トンネル等）の全体一般図は作成してあるか。				
		3) 全体一般図等に必要項目が記載されているか。（函渠、擁壁等）、（設計条件、地質条件等）				
		4) 工事に当たったの留意点を記載したか。				
	数量計算書および概算事業費算出	5) 起点・終点は適正か。				
		1) 概算事業費の数量算出項目、内容（レベル）は打合せ事項と整合しているか。				
		2) 数量計算は、数量算出要領及び打合せ事項と整合しているか。（有効数字、位取り、単位、区分等）				
		3) 数量計算に用いた寸法、数値、記号は図面と一致するか。				
		4) 数量取りまとめは、種類毎、材料毎にあわせてまとめられているか。				
		5) 数量計算の根拠となる資料（根拠図等）は作成しているか。				
		7) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。				
	成果品	数量全体総括、工区総括、ブロック総括等、打ち合わせと整合し、かつ転記ミスや集計ミスがないか。				
		1) 必要な成果品仕様（電子納品等）、部数はあるか。				
		2) コスト削減留意書、リサイクル計画書を作成したか。				
		3) マクロ的（設計条件、幾何構造基準、構造物の寸法及び概略数量）に見て問題はないか。				
5	その他	1) 担当事業課と調整されているか				
		2) 関係機関との協議用資料は作成したか。				
6	設計概要書	3) 業務完了時のTECRISに関して客先確認を行い登録したか。				
		1) 設計概要書は作成したか。				
		報告書の構成は妥当か。また、特記仕様書の内容を満足しているか。				
	報告書	2) 打合せや協議事項は反映されているか。				
		3) 設計条件の考え方が整理されているか。				
		4) 各種検討の経緯とその結果が整理されているか。				
		今後の課題、施工上の申し送り事項及び工事発注に際しての留意事項が記述されているか。				
		設計基準値を技術指針等より引用している場合には出典図書名及びページを明記しているか。				
		7) 「電子納品要領（案）」に基づいて適正に作成したか。				

※太字ゴシックの項目は、発注者側においても特に留意が必要な項目を示す。

道路予備設計（A）の照査一覧表

基本条
件
の
照
査
目
一
覧
表
(照 査 ①)

業 務 名 :

発 注 者 名 :

受 注 者 名 :

照 査 の 日 付 : 平 成 年 月 日

受注者印	照 査 技 術 者	管 理 技 術 者

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	照査項目	照査内容	照査①			確認資料	備考
			該当対象	確認	確認日		
				照査を完了した項目について○印を記入			
▼	▼	▼	▼	▼	▼	確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	▼
1	設計の目的、主旨、範囲	1) 設計の目的、主旨、範囲を把握したか。					詳細設計照査要領の概要「6」、その他記載等に あたっての留意事項」を参照▼
		2) 地域構造(自転車道整備ネットワークやバリアフリー特定経路等)、関連計画(沿道開発、関連道路の改良計画等)等について把握したか。					
		3) 設計の内容、工程等について具体的に把握したか。特記仕様書との整合は確認したか。または、管理表を提出し内容を発注者と確認したか。					
		4) 技術提案がある場合は、業務計画書に技術提案の内容が反映されているか。					
2	貸与資料の確認	1) 貸与資料は最新版であるか確認したか。また、不足点及び追加事項があるか確認したか。不足がある場合には、資料請求、追加調査等の提案を行ったか。					
		2) 事務所、路線毎に統一された基準要領があるか。					
		3) 申し送り事項を確認したか。					
		4) 基準・要領等があるか。また、最新版であるか確認したか。					
		5) 条件明示チェックシートは確認したか。					
3	現地踏査	1) 地形、地質、気象、用・排水、土地利用状況(用地)、保安林や土砂災害指定地等の各種指定区域の有無を把握したか。また、道路排水の接続先について確認したか。					
		2) 沿道状況(取付道路、取付坂路含む)、交通状況(自転車、歩行者含む)、道路利用状況(通学路指定の有無、歩道構造、乗入部含む)、河川状況等を把握したか。					
		3) 近接して施設及び人家等がある場合、盛土に伴う引込み沈下による影響の懸念がないか確認したか。					
		4) 社会環境状況を把握したか。(日曜、騒音、振動、電波状況、水質汚濁、土壌汚染、動植物、井戸使用等) また、環境調査等の資料の有無を確認し入手したか。					
		5) 台帳等入手したうえで、支障物件の状況を把握したか。(地下埋設物:下水、水道、ガス、電力、NTT、通信、共同溝 等及び架空線、樹木、名勝、旧跡等)					
		6) 施工計画の条件に係わる現地状況を把握したか。(ヤード、工事用水、排水処理、工事用電力、工事用建物敷地、交通条件、進入路、周辺関連工事の進捗状況等)					
		7) 施工済み構造物について工事完成図面は確認したか。また、現地状況は整合しているか。					
		8) 発注者と合同で現地踏査を実施したか。					
4	設計基本条件	1) 設計に使用する技術基準、参考図書や各自治体における条例等を確認したか。また、最新版であるか確認したか。					
		2) 整備計画(暫定計画・部分供用の有無等)を確認したか。					
		3) 道路構造(道路区分、計画交通量、設計速度、横断面等)を確認したか。					
		4) 飛地や用地分断等、用地図から機能補償道路に漏れがないか確認しているか。					
		5) コントロールポイント条件は整理されているか。					
		6) 法規制について確認したか。					
5	排水工	1) 降雨強度、確率年、算定式、流出係数、粗度係数の設定は適正か。					
		2) 通水量の算定は妥当か。(粗度係数等)					
6	用排水処理	1) 用水系統は適正か。また、用水路の統廃合について、土地改良区や地元での聞き取り調査等、関係者との調整は整っているか。					
		2) 排水系統は適正か(曲線部の片勾配高さを反映)。また、水路管理者等と調整を行っているか。					
7	舗装工	1) 設計条件を確認したか。(交通量区分、舗装の設計期間、舗装の種類、疲労破壊輪数、舗装計画交通量、信頼度、設計C B R、必要T A、適用箇所、寒冷地域の凍結深さ等)					
		2) 「舗装種別選定の手引き(令和3年12月)」の巻末2に示す「舗装種別チェックシート」等を用いて確認したか。					
8	関連道路(側道、副道、取付交通)	1) 幅員、延長、断面、道路幾何構造は適正か。					
		2) 沿道に対する高さ等の取合は考慮してあるか。					
		3) 舗装構成は決定しているか。					
		4) 関連協議で必要事項は確認されているか。					
9	関連機関との調整	1) 関連機関(関係諸官庁、関係機関)との調整内容を把握したか。					
		2) 河川協議、海岸・地すべり防止・土砂災害警戒区域等との協議、近隣・交差協議、請求協議は適切に実施されているか。					
		3) 道路、鉄道等との交差協議は確認したか。					
		4) 占有者との調整内容を把握したか。					
10	環境及び景観検討	1) 景観検討の必要役、方針、内容、範囲等を理解したか。また、遮音壁等の設置要件(位置、基礎構造)に問題はないか。					
		2) 景観検討の具体的方法、作成すべき資料等は明らかとなっているか。					
		3) 環境影響評価書の有無が確認されているか。					
11	コスト削減	1) 概略設計で提案されたコスト削減方策を確認したか。					
		2) 機能と工費のバランスからのコスト削減方策は考えられるか(例えばV Eの視点)					
		3) コスト削減のための提案を計画したか。					
12	建設副産物対策	1) 基本設計で作成されたリサイクル計画書を確認したか。					
		2) 成果品の仕様(電子納品を含む)、部数もについて確認したか。					
13	成果品	2) 中間成果品の提出の必要性(時期、内容)について確認したか。					
14	その他	1) 業務計画書は発注者の了解を得て提出したか。					
		2) 受注時のTECRISに関して客先確認を行い登録したか。					

※太字ゴシックの項目は、発注者側においても特に留意が必要な項目を示す。

道路予備設計 (A)
細部条件の照査項目一覧表
(照査②)

業務名： _____

発注者名： _____

受注者名： _____

照査の日付： 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

細部条件の照査項目一覧表（様式－2）

No.	照査項目	照査内容	照査②			確認資料	備考
			該当対象	確認	確認日		
			該当対象項目を抽出し ○印を記入	照査を完了 した項目に ついて○印 を記入	その日付を 記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	詳細設計照査要 領の概要「6、 その他記載等に あたっての留意 事項」を参照
1	比較路線の選定	1) 比較路線の選定は適切か。 2) コントロールポイントへの対応は適切か。 3) 道路、河川、鉄道等関連事業と整合がとれているか。 4) 土地利用(計画含む)との整合はとれているか。 5) 環境への対応(騒音、振動、大気、日照等)は適切か。 6) 自然環境への対応(景観、動植物、雑物等)は適切か。 7) 長大構造物(橋梁、トンネル)の計画は適切か。 8) 地形・地質条件と整合はとれているか。 1) 平面線形の使用値は適切か。 2) 道路線形の連続性、円滑性は適切か。 3) 地形との調和はとれているか。 4) 環道との交差及び接続方法は適切か。 5) 付け替え道路、水路、側道等の計画は適切か。 6) 主要構造物の位置、形式等は適切か。 7) 縦断線形の使用値は妥当か。 8) 平面線形と縦断線形の組み合わせは適切か。 9) 交差条件に対するクリアランスは適切か。 10) 土量バランスは適切か。 11) 高盛土、高切土への対策は適切か。 12) 縦断計画と排水計画との整合は図れているか。					
2	平面・縦断・横断設計	1) 幅員構成は適正か。 2) 法面勾配、法面保護工は適切か。 3) 擁壁、特殊法面工、土工構造物等の選定は適切か。 1) 長大橋梁、トンネルの位置、規模は適切か。 2) 図案、管渠、竈等等の配置、断面、位置は適切か。 3) 標準設計図集等に照らし適切か。 1) 標準設計の適用方法は適正か。 2) 重方式擁壁、ブロック積、補強土等を設ける理由、形式、規模等の決定根拠は明確か。					
3	横断設計	1) 排水量の算定は妥当か。 2) 流出量の算定は妥当か。 3) 集水範囲は適切か。 4) 降雨確率年は適切か。(通常排水施設・横断施設) 5) 通水量の算定は妥当か。 6) 用排水構造物の選定は妥当か。 1) 舗装工の設計は適正か。(舗装材料、舗装構成、構築路床等) 2) 防護柵等道路付属物の配置及び規格は適切か。 3) 「舗装種別選定の手引き(令和3年12月)」の巻末2に示す「舗装種別チェックシート」等を用いて確認したか。					
4	主要構造物設計	1) 生活環境(騒音、振動、日照等)への対応は適切か。 2) 自然環境(生態系等)への配慮は適切か。 3) 景観への対応は適切か。 1) コスト削減方策を検討しているか。 2) 新技術の導入について検討しているか。					
5	小構造物	1) 変更契約に伴う、変更業務計画書は提出してあるか。					
6	用排水設計						
7	舗装工						
8	環境及び景観検討						
9	コスト削減						
10	その他						

※太字ゴシックの項目は、発注者側においても特に留意が必要な項目を示す。

道路予備設計 (A)
成果品の照査項目一覧表
(照査 ③)

業務名： _____

発注者名： _____

受注者名： _____

照査の日付： 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

成果品の照査項目一覧表（様式-3）

No.	照査項目	照査内容	照査③			確認資料	備考		
			該当対象	確認	確認日				
			該当対象項目を抽出し ○印を記入	照査を完了 した項目に ついて○印 を記入	その日付を 記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	詳細設計照査要 領の概要「6」 その他記載等に あたっての留意 事項」を参照		
1	設計計算書	1) 打合せ事項は反映されているか。							
		2) 設計条件、施工条件は適正に反映されているか。							
		3) インプットされた値は適正か。							
		4) 各設計ケースは適切か。							
		8) 施工を配慮した計算となっているか。							
		9) 流量計算書は適切か。							
		10) 設計基準値を技術指針等より引用している場合には、出典図書およびページを明記しているか。							
		11) 今後の課題、留意点は整理されているか。							
		12) 図・表の表示は適正か。							
		1) 打合せ事項は反映されているか。							
2	設計図	2) 縮尺、用紙サイズ等は共通仕様書、または、特記仕様書と整合しているか。							
		3) 全体一般図等に必要項目が記載されているか。（函渠、擁壁等）、（設計条件、地質条件等）							
		4) 工事にあつての留意点を記載したか。							
		5) 起点・終点は適正か。							
		6) 主要構造物（橋梁、トンネル等）構造物（函渠、擁壁）等の全体一般図に必要な項目は記載されているか。（設計条件、地質条件）							
		7) 表現方法は適切か。							
		8) 解り易い注記がついているか。							
		9) 設計条件・施工条件が記載されているか。							
		10) 図面が明瞭に描かれているか。（構造物と寸法線の使いわけがなされているか。）							
		11) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。							
3	数量計算書および 概算事業費算出	1) 数量計算は、数量算出要領及び打合せ事項と整合しているか。（有効数字、位取り、単位、区分等）							
		2) 数量計算に用いた寸法、数値、記号は図面と一致するか。							
		3) 数量取りまとめは、種類毎、材料毎にあわせてまとめられているか。							
		4) 数量計算の根拠となる資料（根拠図等）は作成しているか。							
		5) 概算工事費の積算単価は適切か。							
		6) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。							
		7) 数量全体総括、工区総括、ブロック総括等、打ち合わせと整合し、かつ転記ミスや集計ミスがないか。							
		1) 必要な成果品仕様（電子納品等）、部数はあるか。							
		2) コスト削減留意書、リサイクル計画書を作成したか。							
		3) マクロ的（設計条件、幾何構造基準、構造物の寸法及び概略数量）に見て問題はないか。							
4	成果品	1) 担当事業課と調整されているか							
		2) 関係機関との協議用資料は作成したか。							
		3) 業務完了時のTECRISに関して各先確認を行い登録したか。							
5	その他								

道路予備設計（B）の照査一覧表

基本条
件の照査項目一覧表
（照査①）

業 務 名 :

発 注 者 名 :

受 注 者 名 :

照査の日付 : 令和 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	照査項目	照査内容	照査①		確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準等、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要 領の概要「6」 その他記載等に あたっての留意 事項」を参照
			該当対象	確認		
▼	▼	▼	該当対象項目を抽出し ○印を記入	その日付を 記入	▼	▼
1	設計の目的、主 旨、範囲	1) 設計の目的、主旨、範囲を把握したか。				
		2) 自転車道整備ネットワークやバリアフリー特定経路等、地域の計画を把握したか。				
		3) 設計の内容、工種等について具体的に把握したか。特記仕様書との整合は確認したか。または、管理表を提出し内容を発注者と確認したか。				
		4) 技術提案がある場合は、業務計画書に技術提案の内容が反映されているか。				
2	貨と資料の確認	1) 貨と資料は最新版であるか確認したか。また、不足点及び追加事項があるか確認したか。不足がある場合には、資料請求、追加調査等の提案を行ったか。				
		2) 事務所、路傍ごとに統一された基準要領があるか。				
		3) 申し送り事項を確認したか。				
		4) 基準・要領等があるか。また、最新版であるか確認したか。				
		5) 最新の用地資料(概略、用地平面図等)はあるか。				
		6) 各明示チェックシートは確認したか。				
3	現地踏査	1) 地形、地質、気象、用・排水、土地利用状況(用地)、保安林や土砂災害指定地等の各種指定区域の有無を把握したか。また、道路排水の継続先について確認したか。				
		2) 沿道状況(取付道路、取付坂路含む)、交通状況(自転車、歩行者含む)、道路利用状況(通学路指定の有無、歩道橋道、乗入部含む)、河川状況等を把握したか。				
		3) 近接して施設及び人家等がある場合、盛土に伴う引込み沈下による影響の可能性がないか確認したか。				
		4) 社会環境状況を把握したか。(日曜、騒音、振動、電波状況、水質汚濁、土壌汚染、助植物、井戸使用等) また、環境調査等の資料の有無を確認し入手したか。				
		5) 台帳等を手入したうえで、支障物件の状況を把握したか。(地下埋設物：下水道、水道、ガス、電力、NTT、通信、共同溝 等及び架空線、樹木、名勝、旧跡等)				
		6) 施工計画の条件に係わる現地状況を把握したか。(ヤード、工事用水、湧水処理、工事用電力、工事用建物敷地、交通条件、通入路、周辺関連工事の進捗状況等)				
		7) 施工済み構造物について工事完成図面は確認したか。また、現地状況は整合しているか。				
		8) 発注者と合同で現地踏査を実施したか。				
4	設計基本条件	1) 設計に使用する技術基準、参考図書や各自治体における条例等を確認したか。また、最新版であるか確認したか。				
		2) 環境計画(暫定計画・部分供用の有無等)を確認したか。				
		3) 道路構造(道路区分、計画交通量、設計速度、横断面等)を確認したか。				
		4) 用地や用地分断等、用地図から機能補償道路に置れないか確認しているか。				
		5) コントロールポイント条件は整理されているか。				
		6) 法規例について確認したか。				
		7) 施工条件(取付道路等)は整理されているか。				
5	幾何構造、線形条件	1) 平面・縦断線の採用値及び縦断・横断線の確保は適切か(積雪寒冷地の適用の有無)。組み合わせは適正か。また、修正設計の場合、設計条件のどの部分が変更となったか確認したか。				
		2) 幾何構造の使用値(歩道の有無、車線幅員、片勾配、視距等)は適正か。				
		3) 幅員の決定根拠は明確で適正か。(道路規格との適合、積雪寒冷地の適用及び地盤補、道路付属施設に配慮した有効幅員の確保など)				
6	用地条件	1) 縦断線のコントロールポイントは確認したか。				
		2) 用地上のコントロールポイントを確認したか。				
7	土工及び法面工	1) 土質定数(盛土工量、飽和重量など)の設定、地下水位、湧水状況等の把握は適正か。また、地質データが不足する場合、追加調査の提案等を行ったか。				
		2) 切土に対するのり面勾配及び小段の勾配、位置、幅、ラウンディング形状は適切か。				
		3) 盛土に対するのり面勾配及び小段の勾配、位置、幅は適切か。				
		4) 切土あるいは盛土による斜面の安定検討は必要か。				
		5) 切土材料は盛土材料に転用できるか。				
		6) 法面対策工法の必要性について整理しているか。				
		7) 傾斜地盛土の盛土では、段切り等を適切に計画しているか。				
		8) 法面排水工の配置及び構造は適切か。				
		9) 土砂の処理場や採取場及び土質試験場の把握はしてあるか。				
		10) 環境や景観に関して考慮しているか。				
		11) 土質定数は取付工・擁壁工設計との整合性を考慮して設定しているか。				
8	軟弱地盤対策工	1) 軟弱地盤の分布について調査・確認されているか。また、存在する場合、対策の必要性、工法等が整理されているか。				
		2) 降雨強度、確率年、算定式、流出係数、相対係数の設定は適正か。				
9	排水工	1) 排水量の算定は適当か。(相対係数等)				
		2) 路側側溝や横断管などの排水施設の選定は適当か。(経済性、施工性、機能性、計画性、維持管理)				
		3) 路側側溝の設計は適切か。				
10	用排水処理	1) 用水系統は適正か。また、用水路の断面について、土地改良区や地元での聞き取り調査等、関係者との調整は整っているか。				
		2) 排水系統は適正か(曲線部の片勾配高さを反映)。また、水路管理費等と調整を行っているか。				
		3) 排水協議(放流先や途中の既設水路)は適正に実施されているか。				
		4) 排水協議(放流先や途中の既設水路)は適正に実施されているか。				
11	舗装工	1) 設計条件を確認したか。(交通量区分、舗装の設計期間、舗装の種類、疲労破壊輪数、舗装計画交通量、信頼度、設計C B R、必要T A、適用箇所、寒冷地域の凍結深さ等)				
		2) 路床改良の要否について(特別箇所(軟弱地盤、低盛土等)、C B Rが未定もしくは3以下)を確認したか。				
		3) 路床改良が必要場合、経路性の検討を実施したか。				
		4) 「舗装種別選定の手引き(令和3年12月)」の巻末2に示す「舗装種別チェックシート」等を用いて確認したか。				
12	道路付帯構造物 (擁壁、側溝、特設排水 用溝工、橋り脚工、管 渠、護欄、大型用排水 溝、地下道、取付道路、 側道、施設工等)	1) 特記仕様書に示されていない道路付帯構造物は、標準設計を準用できるか。				
		2) 一般構造物予備設計は必要か。				
13	関連道路(側道、副 道、取付交通)	1) 幅員、延長、断面、道路幾何構造は適正か。				
		2) 舗装構成は決定しているか。				
14	関連機関との調整	1) 関連機関(関係諸官庁、諸機関)との調整内容を把握したか。				
		2) 河川協議、海岸・地すべり防止・土砂災害警戒区域等との協議、近接・交差協議、保安林等と適切に調整されているか。				
		3) 関係者及び地元等との調整内容を把握したか。				
		4) 公安協議(事前意見交換)との調整は確認したか。				
		5) 砂防指定、保安林及び埋蔵文化財等との調整は確認したか。				
		6) 各県公害防止条例等(土壌汚染対策法等)の適用区域及び規制値を確認したか。				
		7) 都市計画、土地利用、用途地域、借地の有無等を確認したか。				
		8) 借地すべき法令は確認したか。				
		9) 発生土受入地、または土敷地の位置、規模は確認したか。				
		10) 上位計画、開発行為及び電線類地中化を確認したか。				
15	環境及び景観検討	1) 環境影響評価の内容を把握したか。				
		2) 景観検討の必要性、方針、内容、範囲等を理解したか。また、遮音壁等の設置要件(位置、基礎構造)に問題はないか。				
		3) 景観検討の具体的方法、作成すべき資料等は明らかとなっているか。				
16	コスト削減	1) 概略設計・道路予備設計(A)で提案されたコスト削減方策を確認したか。				
		2) 機能と工費のバランスからのコスト削減方策は考えられるか(例えばV Eの視点)				
17	建設副産物対策	1) コスト削減のための提案を計画したか。				
		2) 概略設計・道路予備設計(A)で作成されたリサイクル計画書を確認したか。				
18	成果品	1) 成果品の仕様(電子納品を含む)、部数もついて確認したか。				
		2) 中間成果品の提出の必要性(時期、内容)について確認したか。				
19	その他	1) 業務計画書は発注者の了解を得て提出したか。				
		2) 受注時のIRISに照し、安全確認を行い確認したか。				

※太字ゴシックの項目は、発注者側においても特に留意が必要な項目を示す。

道路予備設計 (B)
細部条件の照査項目一覧表
(照査 ②)

業務名： _____

発注者名： _____

受注者名： _____

照査の日付： 令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

細部条件の照査項目一覧表（様式－2）

No.	照査項目	照査内容	照査②			確認資料	備考
			該当対象	確認	確認日		
				照査を完了した項目について○印を記入			
			該当対象項目を抽出し○印を記入	その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁等	詳細設計照査要領の概要「6. その他記載等にわたっての留意事項」を参照	
1	幾何構造基準	1) 幾何構造の使用値は適切か。					
4	縦断設計	1) 設計条件の設定は適切か。 2) コントロールポイントとの整合は適切か。 3) 平面線形との組み合わせ、主要構造物の位置、形式等は適切か。 4) 縦断線形と排水計画との整合は図れているか。 1) 設計条件(幅員構成、法勾配等)の設定は適切か。 2) 土層線の設定は適切か。 3) 側道、水路等の設定は適切か。 1) 法面保護工の工種、勾配等は適切か。 2) 地滑り等の安定解析は必要か。 3) 軟弱地盤対策は適切か。 4) 土工対策に必要な地形地質情報は適切に使用されているか。 1) 現場条件・設計条件の設定は適切か。 2) 構造物の設定は適切か。 3) プレキャスト製品の適用は適切か。 1) 設計条件の設定は適切か。 2) 標準設計の適用方法は適切か。 3) 重力式擁壁、ブロック積等を設ける理由、形式高さ等の決定根拠は適切か。 4) プレキャスト製品の適用は適切か。 1) 用排水系統は適切か。 2) 流出量の算出は妥当か。 3) 通水量の算定は妥当か。 4) 用排水構造物の選定は適切か。 1) 舗装工の設計は適正か。(舗装材料、舗装構成、構築路床等) 2) 「舗装種別選定の手引き(令和3年12月)」の巻末2に示す「舗装種別チェックシート」等を用いて確認したか。 1) 生活環境(騒音、振動、日照等)への対応は適切か。 2) 自然環境(生態系等)への配慮は適切か。 3) 景観への対応は適切か。 1) 工区分けは適切か。(暫定施工、段階施工を含む) 2) 暫定施工、段階施工の考え方は適切か。 1) 関連協議による諸条件を確認したか。 2) 必要な関連協議は終了しているか。 1) コスト削減方策を検討しているか。 2) 新技術の導入について検討しているか。 1) 変更契約に伴う、TECRISの登録は必要か。 2) 変更契約に伴う、変更業務計画書は提出してあるか。					
4	横断設計						
4	土工及び法面工						
4	道路付帯構造物設計						
4	小構造物設計						
6	用排水設計						
8	舗装工						
8	環境及び景観検討						
13	施工計画						
13	関連協議						
9	コスト削減						
10	その他						

※太字ゴシックの項目は、発注者側においても特に留意が必要な項目を示す。

道路予備設計 (B)
成果品の照査項目一覧表
(照査 ③)

業 務 名 : _____

発注者名 : _____

受注者名 : _____

照査の日付 : 令和 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No.	照査項目	照査内容	照査③			確認資料	備考
			該当対象	確認			
				照査を完了した項目について○印を記入	確認日		
1 設計計算書	設計計算書	1) 打合せ事項は反映されているか。			その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	詳細設計照査要領の概要「6. その他記載等にあたっての留意事項」を参照
		2) 設計条件、施工条件は適正に反映されているか。					
		3) インプットされた値は適正か。					
		4) 各設計ケースは適切か。					
		8) 施工を配慮した計算となっているか。					
		9) 流量計算書は適切か。					
		10) 設計基準値を技術指針等より引用している場合には、出典図書およびページを明記しているか。					
		11) 今後の課題、留意点は整理されているか。					
		12) 図・表の表示は適正か。					
		1) 打合せ事項は反映されているか。					
		2) 縮尺、用紙サイズ等は共通仕様書、または、特記仕様書と整合しているか。					
		2 設計図	設計図	3) 全体一般図等に必要項目が記載されているか。(函渠、擁壁等)。(設計条件、地質条件等)			
4) 工事にあつての留意点を記載したか。							
5) 起点・終点は適正か。							
6) 主要構造物(橋梁、トンネル等)構造物(函渠、擁壁)等の全体一般図に必要な項目は記載されているか。(設計条件、地質条件)							
7) 表現方法は適切か。							
8) 解り易い注記がついているか。							
9) 設計条件・施工条件が記載されているか。							
10) 図面が明瞭に描かれているか。(構造物と寸法線の使いわけがなされているか。)							
11) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。							
1) 数量計算は、数量算出要領及び打合せ事項と整合しているか。(有効数字、位取り、単位、区分等)							
2) 数量計算に用いた寸法、数値、記号は図面と一致するか。							
3 数量計算書	数量計算書			3) 数量取りまとは、種別毎、材料毎にあわせてまとめられているか。			
		4) 数量計算の根拠となる資料(根拠図等)は作成しているか。					
		5) 施工区分及び段階施工、暫定施工を考慮した数量計算書となっているか。					
		6) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。					
		7) 数量全体総括、工区総括、ブロック総括等、打ち合わせと整合し、かつ転記ミスや集計ミスがないか。					
		1) 圖書の記入は適切にされているか。					
		2) 必要な成果品仕様(電子納品等)部数はあるか。					
		2) コスト削減留意書、リサイクル計画書を作成したか。					
		1) 担当業務と調整されているか					
		2) 関係機関との協議用資料は作成したか。					
		3) 業務完了時のTECRISに関して客先確認を行い登録したか。					

※太字ゴシックの項目は、発注者側においても特に留意が必要な項目を示す。

基本条
道路詳細設計
件の照査項目一覧表
(照査①)

業務名： _____

発注者名： _____

受注者名： _____

照査の日付： 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No.	照査項目	照査内容	照査①			確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要 領の概要「6」 その他記載等に あたっての留意 事項」を参照※
			該当対象 該当対象項目を抽出し ○印を記入	確認			
				確認	確認日 その日付を 記入		
1	設計の目的、主旨、範囲	1) 設計の目的、主旨、範囲を把握したか。 地域構造（自転車道整備ネットワークやバリアフリー特定経路等）、 関連計画（沿道開発、関連道路の改良計画等）等について把握した か。 2) 設計の内容、工程等について具体的に把握したか。特記仕様書との 整合は確認したか。または、管理表を提出し内容を発注者と確認し たか。 3) 技術提案がある場合は、業務計画書に技術提案の内容が反映されて いるか。					
2	貸与資料の確認	1) 貸与資料は最新版であるか確認したか。また、不足点及び追加事項 があるか確認したか。不足がある場合には、資料請求、追加調査等 の提案を行ったか。 2) 専断路、路線毎に統一された基準要領があるか。 3) 申し送り事項を確認したか。 4) 基準・要領等があるか。また、最新版であるか確認したか。 5) 最新の用地資料（幅杭、用地平面図等）はあるか。 6) 条件明示チェックシートは確認したか。					
3	現地踏査	1) 地質、地質、気象、用・排水、土地利用状況（用地）、保安林や土砂 災害指定地等の各種指定区域の有無を確認したか。また、道路排水 の接続先について確認したか。 2) 沿道状況（取付道路、取付仮路含む）、交通状況（自転車、歩行者含 む）、道路利用状況（通学路指定の有無、歩道構造、乗入部含む）、 河川状況等を確認したか。 3) 近接して施設及び人家等がある場合、盛土に伴う引込み放下による 影響の調査がないか確認したか。 4) 社会環境状況を把握したか。（日照、騒音、振動、電波状況、水質汚 濁、土壌汚染、農作物、井戸使用等）また、環境調査等の資料の 有無を確認し入手したか。 5) 台帳等入手したうえで、支障物件の状況を確認したか。（地下埋設 物：下水、水道、ガス、電力、NTT、通信、共同溝 等及び架空線、 樹木、名勝、旧跡等） 6) 施工計画の条件に係わる現地状況を確認したか。（ヤード、工事用 水、湧水処理、工事用電力、工事用建物敷地、交通条件、進入路、 周辺関連工事の進捗状況等） 7) 施工済み構造物について工事完成図面は確認したか。また、現地状 況は整合しているか。 8) 発注者と合同で現地踏査を実施したか。					
4	設計基本条件	1) 設計に使用する技術基準、参考図書や各自治体における条例等を 確認したか。また、最新版であるか確認したか。 2) 整備計画（暫定計画・部分供用の有無等）を確認したか。 3) 道路構造（道路区分、計画交通量、設計速度、横断面等）を確認した か。 4) 飛地や用地分断等、用地図から機能補償道路に漏れがないか確認し ているか。 5) コントロールポイント条件は整理されているか。 6) 関連する最新の設計成果と整合がとれているか。また、前回の設計 を基に詳細設計（修正設計）を行う場合、過年度経緯を確認し成果の 照査を行ったか。 7) 既往調査結果より、地質、地盤の性状及び地下水状況は確認した か。 8) 測量成果の内容（測量座標系と座標、高さの基準と地形図、線形と の整合、震災補正の状況）などを確認したか。 9) 積雪寒冷地、およびその度が高い地域の適用が適正か。 10) 施工時を含め、作用する荷重条件を確認したか。 11) 道路土工について、影響する作用、要求性能、重要性について確認 したか。 12) 盛土の重要性及び要求される性能は決定しているか。					
5	幾何構造、線形条件	1) 平面・縦断線形の採用値及び縦断・横断視距の確保は適切か（積雪 寒冷地の適用の有無）。組み合わせは適正か。また、修正設計の場 合、設計条件のどの部分が変更となったか確認したか。 2) 集約構造の使用値（歩道の有無、車線幅員、片勾配、視距等）は適 正か。 3) 隣接工区や土工、橋梁、トンネル等との取合い（路肩覆り付け、異 質、排水処理、構造物間隙等）を配慮したか。 4) 幅員の決定根拠は明確で適正か。（道路規格との適合、積雪寒冷地 の適用及び集約値、道路付属施設に配慮した有効幅員の確保など） 5) 函渠工の上部では排水施設や通信管路等埋設物、防護柵の設置に必 要な土被りが確保されているか。 6) 交差施設との交差条件は明確か。（交差方法、交差角、幅員、建築 限界、余裕高など） 7) 分合流部の幾何構造採用値は適正か。また、分流部のオフセットに ついて確認したか。					
6	施工条件	1) 工事時期と工程及び施工手順を確認したか。 2) 暫定施工時の施工区分を把握したか。 3) 現場地盤調査の施工区分を把握したか。 4) 施工計画に関する既存資料を入手・確認したか。 5) 施工に支障となる旧施設の撤去条件を確認したか。 6) 近接構造物等への影響を考慮する必要があるか。					
7	用地条件	1) 用地上の市街表はあるか。					
8	土工及び法面工	1) 土質定数（湿潤重量、飽和重量など）の設定、地下水位、湧水状況 等の把握は適正か。また、地質データが不足する場合、追加調査の 提案等を行ったか。 2) 切土に対するのり面勾配及び小段の勾配、位置、幅、ラウンディン グ形状は適切か。 3) 盛土に対するのり面勾配及び小段の勾配、位置、幅は適切か。 4) 切土あるいは盛土による斜面の安定検討は必要か。 5) 切土材料は盛土材料に転用できるか。 6) 法面対策工法の必要性について整理しているか。 7) 傾斜地盤上の盛土では、段切り等を適切に計画しているか。 8) 法面排水工の配置及び構造は適切か。 9) 土砂の処理場や採取場及び土壌搬移路の把握はしてあるか。 10) 環境や景観に関して考慮しているか。 11) 盛土材の設計条件は適切か。 ・盛土材料の使用区分、建設発生土利用（スレーキング材、 高含水材等）への配慮 ・盛土材料物性値（路体盛土の土質定数、路床盛土のCBR） 12) 土質定数は函渠工・擁壁工設計との整合性を考慮して設定してい るか。					
9	軟弱地盤対策工	1) 軟弱地盤の分布について調査・確認されているか。また、存在する 場合、対策の必要性、工法等が整理されているか。 2) 盛土の施工期間及び施工方法（低圧固結法等）は決まっているか。 3) 盛土施工時の施工工程と対策のバランスがとれているか。（緩速盛土、 プレロード及びバースチャージ工法等の地盤強度増加と施工時及び完成 後の盛土の安定性） 4) 残留沈下量と交通開放時期の基本方針は決定しているか。 5) 地質調査は目的にあった調査、解析をしているか。 6) 盛土材の土質試験はしてあるか。また、その土質定数は把握してい るか。 7) 計画線形（平面、縦断計画）の見直し、あるいは他の構造（高架 等）が考えられないか。 8) 軟弱地盤解析項目（円弧すべり、圧密沈下、液状化）の許容値は適 正か。また、周辺の土地利用を考慮した許容値としているか。 9) 軟弱地盤上に設置される函渠の場合、残留沈下量に対する内空断面 の対策は考慮されているか。 10) 環境、用地に対する制限はないか。また、影響を検討する家屋や施 設、地下埋設物はないか。 11) 置き換え盛土の処理場はあるか。 12) 側方流動の影響を受ける構造物（擁壁、橋台等）及び沿道施設はない か。					

※太字ゴシックの項目は、発注者側においても特に留意が必要な項目を示す。

道路詳細設計
細部条件の照査項目一覧表
(照 査 ②)

業 務 名 : _____

発 注 者 名 : _____

受 注 者 名 : _____

照査の日付 : 令和 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

細部条件の照査項目一覧表（様式-2）

No.	照査項目	照査内容	照査② 確認		確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要 領の概要「6」 その他記載等 にあたっての留意 事項」を参照
			該当対象 照査対象項目を抽出し ○印を記入	確認目 照査を完了 した項目に ついて○印 を記入		
1	協議関連	1) 協議は関係者と合意しているか。				
2	施工計画	1) 工区分けは適正か。(暫定施工の有無を含む) また、土量バランスや掘削計画を考慮しているか。 2) 仮事業や旧工事等の土砂や棄等の整合を確認したか。 3) 打合せ事項は反映されているか。 4) 施工方法及び手順は妥当か。また、他工区と施工時間の調整は取れているか。支障物や埋設物の撤去・移設は考慮しているか。 5) 暫定施工の考え方(備員の整合、線形のすりつけなど)に問題はないか。 6) 土量道路(長尺物等の搬入)の経路・勾配は妥当か。				
3	設計計算	1) 片勾配、幅員のすりつけに問題はないか。 2) 用・排水の系統及び透水断面に問題はないか。 3) 既存・類似設計との設計条件、適用範囲を比較確認しているか。				
4	数量計算	1) 数量算出要領により確認を行ったか。 2) 数量推定値は記入されているか。また、その根拠が整理されているか。				
5	土工及び法面工	1) 用地の余裕幅は適正か。 2) 法面保護工の選定は適正か。また、法面対策工法(アンカー、ロックボルト)の計算根拠は適正か。 3) 法面構造(勾配、形状、小段、排水施設等)は適正か。 4) 底土に要求される性能は満足するか。 5) 排水対策は適正か。 6) 切土材料と盛土材料への転用は適正か。				
6	函渠工	1) 本体長、伸縮目地の決定方法は適正か。 2) 軟弱地盤上に構築される場合の鉛直土圧係数は考慮してあるか。(杭基礎などの場合) 3) 沈下の大い場所での特別の処置(段落ち防止枕等)は考慮しているか。 4) 不等沈下はないか。 5) 斜角のつく場合の考慮をしているか。(斜角部の設計方法) 6) 路階版の形状・寸法は適正か。 7) 橋脚工の選定は適正か。また、隣接する擁壁等との基礎工との整合は図られているか。 8) 標準設計適用以外の応力チェックはされているか。 9) ハンチの形状は妥当か。また、ハンチを設けない場合の部材厚は適切か。 10) ウィングの厚さやウィングのハンチの大きさは適切か。 11) 防水工および継手構造は適切か。 12) 照明配管、排水は考慮されているか。 13) 構造細目および配筋に対するチェック(使用鉄筋径、組合せ、鉄筋かぶり、ピッチ、継手、折り曲げ位置、フック形状、スターラップ筋の加工形状等)は適正か。 14) 管理上の問題は発生していないか。(道路、水漏等) 15) 現場打ちとプレキャストの使い分けは適正か。また、プレキャストの場合、現場条件と適用条件の整合を確認したか。 16) 耐震設計の方法は適正か。 17) 施工時の切り回し計画は妥当か。 18) 使用材料は明記されているか。さらに、許容応力度は妥当か。 19) 地下水や成状化地盤に対する検討がされているか。(浮上り検討) 20) 想定している埋戻土の土質定数は適切か。 21) 工事発注に際しての留意事項が記されているか。 22) 数量計算書は数量算出要領及び打合せ事項と整合しているか。 23) 数量計算書に用いた寸法、数値は図面と一致するか。 24) 標準設計適用以外の設計計算を実施する必要があるか。 25) 擁壁高さの決定、地山の取合、底面の勾配は適正か。 26) 背面上の適用は適正か。(施工時の安定性等) 27) 目地間隔は適正か。 28) 成状化の検討は適正か。 29) 基礎工の選定は適正か。また、斜面上の基礎の場合、地盤の傾斜を考慮した検討を行っているか。 30) ・直接基礎(地盤反力、安定、置換深さ等) ・杭基礎(杭間隔、杭種、杭径、定着方式等) 31) 根入れ深さは適正か(土質条件、水の影響)、斜面部での余裕幅は適正か。 32) 掘削土、湧水等の処理について考慮してあるか。 33) 施工性を考えた構造となっているか。(地形その他の現場条件による機械の選定条件等) 34) 応力計算時の常時、地震時の選択は適正か。 35) 耐震設計の方法は適正か。 36) 配筋に対するチェックはされているか。 37) 擁壁先端に作用する荷重は適正か。(衝突荷重、風荷重等) 38) 地下埋設物との取合いは問題ないか。 39) 構造細目は妥当か。(使用鉄筋径、組合せ、かぶり、ピッチ、継手、折り曲げ位置、フック形状、スターラップ筋の加工形状、補強材の長さ等) 40) 使用材料は明記されているか。さらに、許容応力度は妥当か。 41) 現場設計に適用する土質定数は適切か。 42) 工事発注に際しての留意事項が記されているか。 43) 数量計算書は数量算出要領および打合せ事項と整合しているか。 44) 数量計算に用いた寸法、数値は図面と一致するか。				
7	擁壁及び補強土壁	1) 排水施設相互及び道路施設との取合いは考慮されているか。 2) 安全対策(護、防護柵等)は考慮されているか。 3) 流束はチェックされているか。(流束河川のHWLより下の場合の対策が行われているか。) 4) 最終治水までの治水能力、断面に不足はないか。 5) 排水系統図を作成しているか。また、排水系統は適正で、協議結果が反映されているか。 6) 現場打ちとプレキャストの使い分けは適正か。また、管理者の指定する基準等に準じているかを確認したか。 7) 設計区間外の施設との取合いは考慮されているか。 8) 既設水路等の付替は、必要に応じ切願しを検討してあるか。 9) 道路路面の片勾配掘付け区間において、路肩排水施設等の排水は無い。 10) 排水ますと縦断サグ点との位置関係に問題はないか。				
8	排水工	1) 舗装工の設計は適正か。(舗装材料、舗装構成、構築路床等) 2) 段階施工のできる設計となっているか。 3) 再生材の使用は適正か。 4) 従道路及び車線入り入れ部の舗装構成は適正か。 5) 「舗装別選定の引き（令和3年12月）」の巻末2に示す「舗装種別チェックシート」等を用いて確認したか。				
9	舗装工	1) 標準設計適用以外のものは設計計算を実施する必要があるか。 設計が必要な交通安全施設(防護柵、照明施設等)、交通管理施設(情報ボックス、道路標識、マーキング等)等は確認されているか。				
10	小橋渡物	1) 標準設計集約の適用は適正か。 2) 設計条件(幅員、断面形状等)を確認したか。 3) 土質条件は適正か。 4) 型式及び形状の選定は適正か。 5) 基礎工の選定は適正か。				
11	付属施設	1) 土質定数は整理されているか。 2) 設計工程は適切か。(一般設計部、構造部、交通、水路切り替え等) 3) 対策工の必要性と土工及びその範囲は適正か。また、構造物基礎工と連動して、改良余裕幅や緩衝帯の設置を確認したか。 4) ・盛土安定対策 ・沈下対策 ・液状化対策 ・その他 5) サンドマットの厚さは施工性を考慮したか。 6) 動態観測の計画は作成されているか。 7) 暗渠排水計画(形状、間隔)は適正か。 8) 沈下量を土量計算しているか。 9) 用排水路で沈下すると不都合なものはないか。ある場合はその対策は適切か。 10) 周辺地盤・施設に対する影響を確認し、必要に応じて対策方法を検討しているか。 11) 山留め形式の選定は適切か。(現道拡張時の仮設、構造物掘削の工				
12	軟弱地盤対策工	1) 安全性の確保、施工性、現地との整合、近接構造物との関係に配慮したか。 2) 事業中、完成後の環境対策(騒音・振動、自然由来の重金属、動植物等)は妥当か。また、騒音・振動等は規制値を満足しているか。 3) 景観(植栽等)性は妥当か。				
13	仮設構造物	1) 予備設計で提案されたコスト削減設計留意書について検討を行っているか。				
14	環境及び景観検討	1) 建設副産物の処理方法は適正か。また、リサイクル計画書を考慮したか。				
15	コスト削減					
16	建設副産物対策					

※太字ゴシックの項目は、発注者側においても特に留意が必要な項目を示す。

道路詳細設計
成果品の照査項目一覧表
(照査 ③)

業 務 名 : _____

発 注 者 名 : _____

受 注 者 名 : _____

照査の日付 : 令和 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No.	照査項目	照査内容	照査②			確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要領の概要「6.」 その他記載等に あたっての留意 事項」を参照		
			該当対象	確認	確認日				
				該当対象項目を抽出し ○印を記入				その日付を 記入	
▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼		
1	設計計算書	1) 打合せ事項は反映されているか。							
		2) 設計条件、施工条件は適正に反映されているか。							
		3) インプットされた値は適正か。							
		4) 各検討設計ケースは適切か。							
		5) 荷重、許容応力度の取り方は妥当か。							
		6) 安定計算結果は許容値を満たしているか。							
		7) 荷重図、モーメント図等は描かれているか。							
		8) 施工を配慮した計算となっているか。							
		9) 応力度は許容値を満たしているか。また、単位は適正か。							
		10) 隣接工区との整合はとれているか。							
		11) 用排水の流出量と通水量を照査したか。							
		12) 図・表の表示は適正か。							
2	設計図	1) 打合せ事項は反映されているか。							
		縮尺、用紙サイズ等は共通仕様書、または、特記仕様書と整合しているか。							
		3) 全体一般図等に必要項目が記載されているか。（涵渠、擁壁等）、（設計条件、地質条件等）							
		4) 工事にあつての留意点を記載したか。							
		5) 起点・終点は適正か。							
		6) 必要寸法、部材形状及び寸法等にもれないか。							
		7) 使用材料及びその配置は計算書と一致しているか。							
		8) 設計図に防護柵の材料の仕様を明記しているか。（T-20対応、JIS番号、防錆処理HDZ55等）							
		9) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。（特に応力計算、安定計算等の結果が適用範囲も含めて整合しているか。） ・かぶり ・壁厚 ・鉄筋（径、ピッチ、使用材料、ラップ位置、ラップ長、主鉄筋の定着長、段落し位置、ガス圧接位置） ・鋼材形状、寸法 ・使用材料 ・その他							
		10) 鉄筋同士の干渉はないか。または鉄筋と干渉する部材がないか。							
		11) 施工に配慮した設計図となっているか。							
		12) レイアウト、配置、文字サイズ等は適切か。							
		13) 解り易い注記が記載されているか。（構造物と寸法線の使いわけがなされているか。）							
		14) 図面が明瞭に描かれているか。（構造物と寸法線の使いわけがなされているか。）							
		15) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。							
3	数量計算書	1) 数量計算は、数量算出要領及び打合せ事項と整合しているか。（有効数字、位取り、単位、区分等）							
		2) 数量計算に用いた寸法、数値、記号は図面と一致するか。							
		3) 数量取りまとめは、種類毎、材料毎にあわせてまとめられているか。							
		4) 数量計算の根拠となる資料（根拠図等）は作成しているか。							
		5) 施工区分及び段階施工、暫定施工を考慮した数量計算書となっているか。							
		6) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。							
		7) 数量全体総括、工区総括、ブロック総括等、打ち合わせと整合し、かつ転記ミスや集計ミスがないか。							
		8) 使用する材料の規格及び強度等は記入されているか。							
4	施工計画書	1) 施工方法、施工手順が妥当であるか。							
		2) 施工時の道路、河川等の切り廻し計画は適正か。							
		3) 経済性、安全性（自動車、自転車、歩行者）が配慮されているか。							
		4) 工事用道路、運搬路計画は適正か。							
		5) 施工ヤード、施工スペースは確保されているか。							
		6) 暫定計画、完成計画との整合はとれているか。							
5	設計調査	7) 全体事業計画との整合が図られているか。							
		8) 関係法令を遵守した計画になっているか。							
		9) 施工に対する申送り事項が記載されているか。							
		1) 設計調査の記入は適正になされているか。							
		2) マクロ的に見て問題ないか。（設計条件、幾何条件、主要寸法、主要数量（例、m2当たりコンクリート量、m3当たり鉄筋量、m2当たり鋼重等）を類似例、一般例と比較する。）							
		6	設計概要書	1) 設計概要書は作成したか。					
		7	赤黄チェック	1) 赤黄チェック等により照査したか。					
		8	報告書	報告書の構成は妥当か。また、特記仕様書の内容を満足しているか。					
				2) 打合せや協議事項は反映されているか。					
3) 設計条件の考え方が整理されているか。									
4) 各種検討の経緯とその結果が整理されているか。									
5) 今後の課題、施工上の申し送り事項及び工事発注に際しての留意事項が記述されているか。									
6) 設計基準値を技術指針等より引用している場合には出典図書名及びページを明記しているか。									
7) 「電子納品要領（案）」に基づいて適正に作成したか。									
9	コスト削減	1) 実施したコスト削減効果は整理したか。							
10	建設副産物対策	1) リサイクル計画書を作成しているか。							
11	TECRIS	1) TECRISの内容について、発注者と確認を行ったか。							
12	その他	1) 担当事業課と調整されているか。							
		2) 関係機関との協議用資料は作成したか。							
		3) 業務完了時のTECRISに関して客先確認を行い登録したか。							

※太字ゴシックの項目は、免注有欄においても特に留意が必要な項目を示す。

平面交差点詳細設計の照査一覧表

基本条 件 の 照 査 目 一 覧 表
(照 査 ①)

業 務 名 :

発 注 者 名 :

受 注 者 名 :

照 査 の 日 付 : 令和 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

〔道路詳細設計と重複するものは、照査の必要ない〕

No.	照査項目	照査内容	照査① 確認		確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要 領の概要「6」 その他記載等に あたっての留意 事項」を参照
			該当対象 該対象項目を抽出し ○印を記入	確認日 照査を完了 した項目に ついて○印 を記入		
1	設計の目的、主旨、範囲	1) 設計の目的、主旨、範囲を把握したか。				
		2) 自転車道整備ネットワークやバリアフリー特定経路等、地域の計画を把握したか。				
		3) 設計の内容、工程等について具体的に把握したか。特記仕様書との整合は確認したか。また、スケジュール管理表を提出したか。				
		4) 技術提案がある場合は、業務計画書に技術提案の内容が反映されているか。				
2	貸与資料の確認	1) 予備設計の計画は適正か。				
		2) 貸与資料は最新版であるか確認したか。不足点及び追加事項があるか確認したか。また、不足がある場合には、資料請求、追加調査等の提案を行ったか。				
		3) 事務所、路線ごとに統一された基準要件があるか。				
		4) 申し送り事項を確認したか。				
		5) 基準・要領等はあるか。また、最新版であるか確認したか。				
		6) 各県公安委員会の運用・手引の有無を確認したか。また、最新版であるか確認したか。				
		7) 最新の用地資料（幅員、用地平面図等）はあるか。				
		8) 条件明示チェックシートは確認したか。				
3	現地踏査	1) 地形、地質、気象、用・排水、土地利用状況(用地)、浸水想定区域や土砂災害指定地等の各種指定区域の有無を把握したか。また、道路排水の接続先について確認したか。				
		2) 沿道状況(取付道路、取付経路含む)、交通状況(自転車、歩行者含む)、道路利用状況(通車路指定の有無、歩道構造、乗入部含む)、河川状況等を把握したか。				
		3) 交差道路の規制状況、現地の幅員構成、交差点信号表示、付加車線の滞留状況、バスの有無、規制状況等を確認したか。				
		4) 社会環境状況を把握したか。(日雨、騒音、振動、電波状況、水質汚濁、土壌汚染、動植物、井戸使用等) また、環境調査等の資料の有無を確認し入手したか。				
		5) 台帳等入手したうえで、支障物件の状況を把握したか。(地下埋設物:下水、水道、ガス、電力、NTT、通信、共同溝 等及び架空線、樹木、名勝、旧跡等)				
		6) 大規模交通発生施設、歩行者・自転車の動線及び滞留スペースの状況等を確認したか。				
		7) 施工計画の条件を把握したか。(施工ヤード(施工機械配置、現道切り回しヤード等)、工事用水、濁水処理、工事用電力、工事用建物敷地、交通条件、進入路、周辺関連工事の進捗状況等)				
		8) 施工済み構造物について工事完成図面は確認したか。また、現地状況は整合しているか。				
4	設計基本条件	9) 設計に使用する技術基準、参考図書や各自治体における条例等を確認したか。また、最新版であるか確認したか。				
		2) 過年度成果における「申し送り事項」に対して確認し、対応方法について協議したか。				
		3) 道路(本線、従道路、取付道路等)の構造、規格を確認したか。				
		4) 交差点の設計速度、既存道路の規制速度を確認したか。				
		5) 交差点形状を確認したか。				
		6) 交差点間隔を確認したか。				
		7) 方向別交通量の設定方法を確認したか。また、交通量の推計年次、完成形と暫定形の区分等を確認したか。				
		8) 交差点側方方法を確認したか。				
		9) 設計車両を確認したか。				
		10) 歩行者・自転車の動線は適正か。				
		関連する最新の設計成果と整合がとれているか。また、前段の設計を基に詳細設計(修正設計)を行う場合、過年度転写を確認し成果の照査を行ったか。				
		12) 測量成果の内容(測量座標系と座標、高さの基準と地形図、線形との整合、電磁補正の状況)などを確認したか。				
		13) 自転車通行空間を考慮したか。また、自転車・歩行者の分離を確認したか。				
		14) 積雪寒冷地、およびその度が甚だしい地域の適用が適正か。				
		15) 施工時を含め、作用する荷重条件を確認したか。				
		16) 交差点付近の舗装は、耐流動耐摩耗対策を検討する必要があるか。				
5	幾何構造、線形条件	1) 平面・縦断線形(本線、従道路)の採用値や緩勾配区間の確保は妥当か。また、組み合わせは適正か。				
		幅員構成は適正か。また、幅員構成上、自転車専用帯等自転車走行空間を考慮したか。				
		3) 視距、見通し距離は適正か。				
		4) 付加車線の設置は適正か。				
		5) 交差角は適正か。				
		6) 本線シフト方法は適切か。				
		7) 隅切りは適正か。				
6	交通制御、交通処理	1) 交通制御(信号、一時停止、ラウンドアバウト)及び番号制制した場合の信号表示、サイクル長、交差点需要率、歩行者横断時間は適正か。				
		2) 交差点交通容量は適正か。				
		3) 交通処理方法は適正か。				
		4) 横断歩道及び停止線位置は適正か。				
		5) バス停留所の位置、停車帯の形状等は適正か。				
		6) 沿道からの出入り箇所は適正か。				
7	用地条件	1) 用地巾収容はあるか。				
8	計画条件の整理	1) 土工及び法面工の計画は適正か。(道路詳細設計との整合)				
		2) 小構造物及び構造物の計画は適正か。(道路詳細設計との整合)				
		3) 用・排水工の計画は適正か。(道路詳細設計との整合)				
		4) 舗装工の計画は適正か。(道路詳細設計との整合)				
9	施工条件	1) 工事時期と工程及び施工手順を確認したか。				
		2) 工区割り及び段階建設、暫定施工の有無を確認したか。				
		3) 施工計画に関する既存資料を入手・確認したか。				
		4) 施工に支障となる旧施設の撤去条件を確認したか。				
		5) 近接構造物等への影響を考慮する必要があるか。				
10	関連道路(側道、副道、取付支道)	1) 主、従道路の優先関係は明確となっているか。				
11	関連機関との調整	2) 副道等の取付方法は適正か。				
		3) 従道路の整備は適正か。				
		4) 関連機関(関係機関庁、隣接機関)との調整内容を確認したか。				
		5) 地権者及び地元等の調整内容を確認したか。				
12	環境及び景観検討	6) 占用者の調整内容を確認したか。				
		協議調整事項は設計に反映されているか。				
13	コスト削減	1) 景観検討の必要性、方針、内容、範囲等を理解したか。また、遮音壁等の設置要件(位置、基礎構造)に問題はないか。				
14	建設副産物対策	1) 予備設計で提案されたコスト削減設計留意書を確認したか。				
15	成果品	1) 予備設計で作成されたリサイクル計画書を確認したか。				
		2) 成果品の仕様(電子納品を含む)、部数もついて確認したか。				
16	その他	1) 中間成果品の提出の必要性(時期、内容)について確認したか。				
		2) 業務計画書は発注者の了解を得て提出したか。				
		2) 受注時のTECRISに関して客先確認を行い登録したか。				

※太字ゴシックの項目は、発注者側においても特に留意が必要な項目を示す。

平面交差点詳細設計
細部条件の照査項目一覧表
(照 査 ②)

業 務 名 : _____

発 注 者 名 : _____

受 注 者 名 : _____

照査の日付 : 令和 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

細部条件の照査項目一覧表（様式－2）

〔道路詳細設計と重複するものは、照査の必要ない〕

No.	照査項目	照査内容	照査②			確認資料	備考
			該当対象	確認	確認日		
1	協議関係	1) 協議は諸条件と合致しているか。				確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	詳細設計照査要 領の概要「6」 その他記載等に あたっての留意 事項」を参照
		2) 工区分けは妥当か。(暫定施工の有無を含む)					
		2) 打合せ事項は反映されているか。					
2	施工計画	3) 施工方法及び手順は妥当か。他工区と施工時期の調整は取れているか。また、支障物や埋設物の撤去・移設は考慮しているか。					
		4) 暫定施工の考え方(幅員の整合、線形のすりつけなど)に問題はな いか。					
		5) 現道交通確保の安全性に問題はな いか。					
3	設計計算	6) 工事用道路(長大物等の搬入)の経路・勾配は妥当か。					
		1) 交通処理能力、計算方法に問題はないか。また滞留長は妥当か。					
		2) 用、排水の系統及び通水断面に問題はないか。					
4	数量計算書	1) 数量算出要領により確認を行ったか。					
		1) 中央分離帯の設置範囲、開口部の位置及び及び構造は適正か。					
		2) 導流路の設計手法、開切り及び歩道の巻き込みは適正か。					
		3) 路面標示は適正か。					
		4) 付加車線(滞留長、レーバ長、本線シフト長等)の諸元は適正か。					
		信号、照明、交通管理施設、防護柵等の設置計画は適正か。また、 信号及び交通管理施設相互の相認性が確保されているか確認した か。					
5	詳細検討	6) 視覚障害者誘導用ブロックの設置方法は適正か。					
		7) 交通制御面で近接する交差点との整合性はとれているか。					
		8) 積雪寒冷地の対応は適正か。					
		9) 道路詳細設計と整合はとれているか。					
		10) 土工及び法面工の設計は適正か。(道路詳細設計と整合)					
		11) 小構造物及び構造物の設計は適正か。(道路詳細設計と整合)					
		12) 点内のサグ位置は確認したか。					
		13) 舗装工の設計は適正か。(道路詳細設計と整合)					
		14) 用地幅は適正か。(道路詳細設計と整合)					
		15) 治道出入り口との高さの取り合いは確認したか。					
		16) 排水のための勾配、集水木の計画位置及び流末処理は適正か。					
		17) 自転車・通行者の運用方法は隣接工区等と整合しているか。					
		交通制御(信号、一時停止、ラウンドアバウト)及び信号制御した 場合の信号現示、サイクル長、交差点需要率、歩行者横断時間は適 正か。					
		2) 交差点交通容量は適正か。					
		3) 交通処理方法は適正か。					
6	交通制御、交通処 理	4) 横断歩道及び停止線位置は適正か。					
		5) バス停留所の位置、停車帯の形状等は適正か。					
		6) 治道からの出入り箇所は適正か。					
7	環境及び景観検討	1) 事業中、完成後の環境対策(騒音・振動、自然由来の重金属、動植 物等)は妥当か。また、騒音・振動等は規制値を満足しているか。					
		2) 景観(植栽等)性は妥当か。また植栽により視認性が阻害されて いないか。					
		予備設計で提案されたコスト削減設計留意書について検討を行って いるか。					
8	コスト削減	1) 建設副産物の処理方法は適正か。また、リサイクル計画書を考慮し たか。					
9	建設副産物対策	1) 建設副産物の処理方法は適正か。また、リサイクル計画書を考慮し たか。					

※太字ゴシックの項目は、発注者側においても特に留意が必要な項目を示す。

平面交差点詳細設計
成果品の照査項目一覧表
(照査③)

業務名： _____

発注者名： _____

受注者名： _____

照査の日付： 令和 ____ 年 ____ 月 ____ 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

成果品の照査項目一覧表（様式-3）

No.	照査項目	照査内容	照査② 確認		確認資料	備考
			該当対象	確認日		
1	設計計算書	1) 打合せ事項は反映されているか。	☐	☐	確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁等	詳細設計照査要 求の概要 6. その他記載等に あつたつての照査 事項1を参照
		2) 設計条件、施工条件は適正に反映されているか。	☐	☐		
		3) インフラ、設計条件の反映は適切か。	☐	☐		
		4) 各種設計条件の適用は適切か。	☐	☐		
		5) 計算結果は交通量に適合しているか。	☐	☐		
		6) 現状の交通状況を踏まえた交通量（超過交通需要等の考慮）で検討を行っているか。	☐	☐		
		7) 雨、排水の排水及び通水断面に問題はなにか。（道路詳細設計と整合）	☐	☐		
		8) 雨、排水の排水量と通水量を照査したか。	☐	☐		
		9) 計算チェックによる指図内容に基づき、設計計算書を適正に修正したか。	☐	☐		
		10) 図・表の表示は適正か。	☐	☐		
2	設計図	1) 打合せ事項は反映されているか。	☐	☐		
		2) 雨、用紙サイズ等は実施仕様書、または、特記仕様書と整合しているか。	☐	☐		
		3) 全体・敷設等に必要項目が記載されているか。（設計条件、地質条件等）	☐	☐		
		4) 工事にあつたての留意点を記載したか。	☐	☐		
		5) 起点・終点は適正か。	☐	☐		
		6) 施工に配慮した設計図となっているか。	☐	☐		
		7) レイアウト、配置、文をサイズ等は適切か。	☐	☐		
		8) 解り易い注記が記載されているか。	☐	☐		
		9) 交差点内の排水系統を記載したか。	☐	☐		
		10) 図面が明確に描かれているか。（構造物と寸法線の使いわけがなされているか。）	☐	☐		
3	数量計算書	1) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。	☐	☐		
		2) 数量計算は、数量算出原則及び打合せ事項と整合しているか。（有数量、位置、単位、数値、記号は図面と一致するか。）	☐	☐		
		3) 数量計算に用いた寸法、数値、記号は図面と一致しているか。	☐	☐		
		4) 数量計算の根拠となる資料（根拠図等）は作成しているか。	☐	☐		
		5) 施工区分及び段階施工、暫定施工を考慮した数量計算書となっているか。	☐	☐		
		6) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。	☐	☐		
		7) 数量全体総括、工区総括等、打ち合わせと整合し、かつ転記ミスや集計ミスがないか。	☐	☐		
		8) 使用する材料の規格及び数量等は記入されているか。	☐	☐		
		9) 施工に於ける申送り事項は記載されているか。	☐	☐		
		10) 経済性、安全性（自動車、自転車、歩行者）が配慮されているか。	☐	☐		
4	施工方法の検討	1) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。	☐	☐		
		2) 数量全体総括、工区総括等、打ち合わせと整合し、かつ転記ミスや集計ミスがないか。	☐	☐		
		3) 使用する材料の規格及び数量等は記入されているか。	☐	☐		
		4) 施工に於ける申送り事項は記載されているか。	☐	☐		
		5) 経済性、安全性（自動車、自転車、歩行者）が配慮されているか。	☐	☐		
		6) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。	☐	☐		
		7) 数量全体総括、工区総括等、打ち合わせと整合し、かつ転記ミスや集計ミスがないか。	☐	☐		
		8) 使用する材料の規格及び数量等は記入されているか。	☐	☐		
		9) 施工に於ける申送り事項は記載されているか。	☐	☐		
		10) 経済性、安全性（自動車、自転車、歩行者）が配慮されているか。	☐	☐		
5	設計図書	1) 打合せ事項は反映されているか。	☐	☐		
		2) 雨、用紙サイズ等は実施仕様書、または、特記仕様書と整合しているか。	☐	☐		
		3) 全体・敷設等に必要項目が記載されているか。（設計条件、地質条件等）	☐	☐		
		4) 工事にあつたての留意点を記載したか。	☐	☐		
		5) 起点・終点は適正か。	☐	☐		
		6) 施工に配慮した設計図となっているか。	☐	☐		
		7) レイアウト、配置、文をサイズ等は適切か。	☐	☐		
		8) 解り易い注記が記載されているか。	☐	☐		
		9) 交差点内の排水系統を記載したか。	☐	☐		
		10) 図面が明確に描かれているか。（構造物と寸法線の使いわけがなされているか。）	☐	☐		
6	報告書	1) 報告書の構成は妥当か。また、特記仕様書の内容を満足しているか。	☐	☐		
		2) 打合せ事項は反映されているか。	☐	☐		
		3) 設計条件の適用は適切か。	☐	☐		
		4) 計算結果は交通量に適合しているか。	☐	☐		
		5) 現状の交通状況を踏まえた交通量（超過交通需要等の考慮）で検討を行っているか。	☐	☐		
		6) 雨、排水の排水及び通水断面に問題はなにか。（道路詳細設計と整合）	☐	☐		
		7) 雨、排水の排水量と通水量を照査したか。	☐	☐		
		8) 計算チェックによる指図内容に基づき、設計計算書を適正に修正したか。	☐	☐		
		9) 図・表の表示は適正か。	☐	☐		
		10) 図・表の表示は適正か。	☐	☐		
7	コスト削減	1) 報告書の構成は妥当か。また、特記仕様書の内容を満足しているか。	☐	☐		
		2) 打合せ事項は反映されているか。	☐	☐		
		3) 設計条件の適用は適切か。	☐	☐		
		4) 計算結果は交通量に適合しているか。	☐	☐		
		5) 現状の交通状況を踏まえた交通量（超過交通需要等の考慮）で検討を行っているか。	☐	☐		
		6) 雨、排水の排水及び通水断面に問題はなにか。（道路詳細設計と整合）	☐	☐		
		7) 雨、排水の排水量と通水量を照査したか。	☐	☐		
		8) 計算チェックによる指図内容に基づき、設計計算書を適正に修正したか。	☐	☐		
		9) 図・表の表示は適正か。	☐	☐		
		10) 図・表の表示は適正か。	☐	☐		
8	建設創産物対策	1) 報告書の構成は妥当か。また、特記仕様書の内容を満足しているか。	☐	☐		
		2) 打合せ事項は反映されているか。	☐	☐		
		3) 設計条件の適用は適切か。	☐	☐		
		4) 計算結果は交通量に適合しているか。	☐	☐		
		5) 現状の交通状況を踏まえた交通量（超過交通需要等の考慮）で検討を行っているか。	☐	☐		
		6) 雨、排水の排水及び通水断面に問題はなにか。（道路詳細設計と整合）	☐	☐		
		7) 雨、排水の排水量と通水量を照査したか。	☐	☐		
		8) 計算チェックによる指図内容に基づき、設計計算書を適正に修正したか。	☐	☐		
		9) 図・表の表示は適正か。	☐	☐		
		10) 図・表の表示は適正か。	☐	☐		
9	その他	1) 報告書の構成は妥当か。また、特記仕様書の内容を満足しているか。	☐	☐		
		2) 打合せ事項は反映されているか。	☐	☐		
		3) 設計条件の適用は適切か。	☐	☐		
		4) 計算結果は交通量に適合しているか。	☐	☐		
		5) 現状の交通状況を踏まえた交通量（超過交通需要等の考慮）で検討を行っているか。	☐	☐		
		6) 雨、排水の排水及び通水断面に問題はなにか。（道路詳細設計と整合）	☐	☐		
		7) 雨、排水の排水量と通水量を照査したか。	☐	☐		
		8) 計算チェックによる指図内容に基づき、設計計算書を適正に修正したか。	☐	☐		
		9) 図・表の表示は適正か。	☐	☐		
		10) 図・表の表示は適正か。	☐	☐		

※本表でゴシックの項目は、発注者側においても特に留意が必要な項目を示す。

立体交差点予備設計の照査一覧表

基本条 件 の 照 査 目 一 覧 表
(照 査 ①)

業 務 名 :

発 注 者 名 :

受 注 者 名 :

照 査 の 日 付 : 令和 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

〔道路詳細設計と重複するものは、照査の必要ない〕

No.	照査項目	照査内容	照査①		確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要領の概要「6. その他記載等に あたっての留意事項」を参照		
			該当対象	確認				
				照査を完了した項目について○印を記入				
▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼		
1	設計の目的、主旨、範囲	1) 設計の目的、主旨、範囲を把握したか。						
		2) 自転車道整備ネットワークやバリアフリー特定経路等、地域の計画を把握したか。						
		3) 設計の内容、工法等について具体的に把握したか。特記仕様書との整合性は確認したか。また、スケジュール管理表を提出したか。						
		4) 技術提案がある場合は、業務計画書に技術提案の内容が反映されているか。						
2	貸与資料の確認	1) 貸与資料は最新版であるか確認したか。また、不足点及び追加事項があるか確認したか。不足がある場合には、資料請求、追加調査等の提案を行ったか。						
		2) 寄託所、既設ごとと統一された基準要領があるか。						
		3) 申し送り事項を確認したか。						
		4) 基準・要領等があるか。また、最新版であるか確認したか。						
		5) 最新の用地資料（幅員、用地平面図等）はあるか。						
		6) 各計画年度における計画と実際の進捗状況を確認したか。						
3	現地踏査	1) 地形、地質、気象、用・排水、土地利用状況(用地)、保安林や土砂災害指定地等の各種指定区域の有無を把握したか。また、道路排水の接続先について確認したか。						
		2) 沿道状況(取付道路、取付道路含む)、交通状況(自転車、歩行者含む)、道路利用状況(通学路指定の有無、歩道橋、乗入部含む)、河川状況等を把握したか。						
		3) 近接して施設及び人家等がある場合、盛土に伴う引込み状下による影響の懸念がないか確認したか。						
		4) 社会環境状況を把握したか。(日露、騒音、振動、電磁状況、水質汚濁、土壌汚染、助産物、井戸使用等) また、環境調査等の資料の有無を確認し入手したか。						
		5) 各種等も示したうえで、支障物件の状況を把握したか。(地下埋設物:下水、水道、ガス、電力、NTT、通信、共同溝 等及び架空線、樹木、名勝、旧跡等)						
		6) 施工計画の条件に係わる現地状況を把握したか。(ヤード、工事用水、濁水処理、工事用電力、工事用建物敷地、交通条件、進入路、周辺関連工事の進捗状況等)						
		7) 施工時の環境事項が把握されているか。						
		8) 地すべり等危険箇所について工事完成図面は確認したか。また、現地状況は整合しているか。						
		9) 発注者と合同で現地踏査を実施したか。						
		4	設計基本条件	1) 道路の機能(位置付け、性能付け)が確認されているか。				
				2) 適用基準が確認されているか。				
3) 計画交通量は確認されているか。								
4) 道路規格は確認されているか。								
5) 設計速度は確認されているか。								
6) 横断面構成及び土工定規は確認されているか。								
7) 地質条件は整理されているか。								
8) 設計の組織は確認されているか。								
9) コントロールポイントとすべき箇所が整理されているか。								
10) 関連する事業や計画と整合がとれているか。								
11) 法的制約条件は整理されているか。								
12) 施工条件(取付工事)は整理されているか。								
5	幾何構造、線形条件	1) 立体交差部の平面線形は適切か。						
		2) 縦断線形のコントロールポイントは確認したか。						
6	用地条件	3) 縦断線形の車道線は適切か。						
		4) 縦断構成は適切か。(標準断面、積雪寒冷地との整合)						
7	土工及び法面工	1) 用地上のコントロールポイントを確認したか。						
		2) 横断構成は確認したか。						
		土質定数(断面重量、飽和重量など)の設定、地下水位、湧水状況等の把握は適切か。また、地質データが不足する場合、追加調査の提案等を行ったか。						
		3) 切土に対するのり面勾配及び小段の勾配、位置、幅、ランディング形状は適切か。						
		4) 盛土に対するのり面勾配及び小段の勾配、位置、幅は適切か。						
		5) 切土あるいは盛土による斜面の安定検討は必要か。						
		6) 切土材料は盛土材料と同等とできるか。						
		7) 法面対策工法の必要性について整理しているか。						
		8) 傾斜地盛土の盛土では、段切り等を適切に計画しているか。						
		9) 法面排水工の配置及び構造は適切か。						
		10) 土砂の処理場や採取場及び土運搬経路の把握はしてあるか。						
8	軟弱地盤対策工	10) 環境や景観に関して考慮しているか。						
		11) 土質定数は両渠工・擁壁工設計との整合性を考慮して設定しているか。						
9	排水工	1) 軟弱地盤の分布について調査・確認されているか。また、存在する場合、対策の必要性、工法等が整理されているか。						
		2) 降雨強度、確率年、算定係数、相対係数の設定は適切か。						
		3) 排水量の算定は適切か。(相対係数等)						
10	用排水処理	3) 降雨前線や観測点などの排水施設の設定は適切か。(経済性、施工性、機能性、計画性、維持管理)						
		1) 排水系統は適切か。また、排水路の断面形状について、土地改良区や地元での聞き取り調査等、関係者との調整は進んでいるか。						
		2) 排水系統は適切か(曲線部の片勾配高さを反映)。また、水路管理費等と調整を行っているか。						
11	舗装工	3) 排水設備(放流先や途中の既設水路)は適正に実施されているか。						
		設計条件を確認したか。(交通量区分、舗装の設計期間、舗装の種類別、疲労破壊係数、舗装計画交通量、信頼度、設計CBR、必要TA、適用箇所、寒冷地域の連結深さ等)						
		2) 特別箇所(軟弱地盤、低盤土等)の路床改良の要否を確認したか。						
		路床改良の要否について(特別箇所(軟弱地盤、低盤土等)、CBRが未測定もしくは5以上でも)確認したか。						
12	道路付帯構造物 [擁壁、側溝、特殊法面構築工、等間隔土工、管渠、護欄、大型用排水溝、地下道、取付道路、側道、側道工事等]	3) 路床改良が必要場合、経路別の検討を実施したか。						
		「舗装種別選定の手引き(令和3年12月)」の巻末2に示す「舗装種別チェックシート」等を用いて確認したか。						
		1) 特記仕様書に示されていない道路付帯構造物は、標準設計を採用できるか。						
		2) 一般構造物予備設計は必要か。						
13	関連道路(側道、側道、取付交通)	1) 側溝、延長、断面、道路幅員構造は適切か。						
		2) 舗装構成は決定しているか。						
		1) 関連機関(関係行政官庁、諸機関)との調整内容を確認したか。						
		河川協議、海岸・地すべり防止・土砂災害警戒区域等との協議、近接・交差協議、近接協議は適切に実施されているか。						
		2) 関係者及び地元等の調整内容を確認したか。						
		4) 公安協議(事前意見交換)との調整は確認したか。						
		5) 砂防指定、保安林及び埋蔵文化財等との調整は確認したか。						
		6) 各県公害防止条例等(土壌汚染対策法等)の適用区域及び規制値を確認したか。						
		7) 都市計画、土地利用、用途地域、借地の有無等を確認したか。						
		8) 造成すべき法面は確認したか。						
14	関連機関との調整	9) 発生土受入地、または土取場の位置、規模は確認したか。						
		10) 上位計画、開発行為及び電線類地下化を確認したか。						
		1) 環境影響評価の内容を把握したか。						
		2) 景観検討の必要性、方針、内容、範囲等を理解したか。また、遮音壁等の設置要件(位置、基礎構造)に問題はないか。						
		3) 景観検討の具体的方法、作成すべき資料等は明らかとなっているか。						
		1) 積雪寒冷地適用の要否は確認したか。						
		概略設計・道路予備設計(A)で提案されたコスト削減方を確認したか。						
		2) 概略設計・道路予備設計(A)で提案されたコスト削減方を確認したか。						
		3) 概略設計・道路予備設計(A)で提案されたコスト削減方を確認したか。						
		17	コスト削減	概略設計・道路予備設計(A)で作成されたたりサイクル計画書を確認したか。				
18	建設副産物対策	1) 概略設計・道路予備設計(A)で作成されたたりサイクル計画書を確認したか。						
		1) 成果品の仕様(電子納品を含む)、部数もついで確認したか。						
19	成果品	2) 中間成果品の提出の必要性(時期、内容)について確認したか。						
		1) 業務計画書は発注者の了解を得て提出したか。						
20	その他	2) 発注者のIP(RIS)に開いて冬季凍結を行い修繕したか。						

※太字ゴシックの項目は、発注者側においても特に留意が必要な項目を示す。

立 体 交 差 予 備 設 計
細 部 条 件 の 照 査 項 目 一 覧 表
(照 査 ②)

業 務 名 : _____

発 注 者 名 : _____

受 注 者 名 : _____

照 査 の 日 付 : 令 和 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

細部条件の照査項目一覧表（様式－2）

〔道路詳細設計と重複するものは、照査の必要ない〕

No.	照査項目	照査内容	照査②			確認資料	備考
			該当対象	確認	確認日		
			該当対象項目を抽出し○印を記入	照査を完了した項目について○印を記入	その日付を記入	確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	詳細設計照査要領の概要「6. その他記載等にわたったの留意事項」を参照
1	幾何構造基準	1) 幾何構造の使用値は適切か。 2) 立体交差流入部の長さ、すり付け長は適切か。 3) 本線及びランプ相互の見通しは確保されているか。					
		4) 加減速車線の長さは適切か。 1) 設計条件の設定は適切か。 2) コントロールポイントとの整合は適切か。 3) 平面線形との組み合わせは、主要構造物の位置、形式等は適切か。 4) 縦断線形と排水計画との整合は図れているか。					
2	縦断設計	1) 設計条件(幅員構成、法勾配等)の設定は適切か。 2) 土層線の設定は適切か。 3) 側道、水路等の設定は適切か。 1) 法面保護工の工種、勾配等は適切か。 2) 地滑り等の安定解析は必要か。 3) 軟弱地盤対策は適切か。 4) 土工対策に必要な地形地質情報は適切に使用されているか。					
		1) 現場条件・設計条件の設定は適切か。 2) 構造物の設定は適切か。 3) プレキャスト製品の適用は適切か。 1) 設計条件の設定は適切か。 2) 標準設計の適用方法は適切か。 3) 重力式擁壁、ブロック積等を設ける理由、形式高さ等の決定根拠は適切か。 4) プレキャスト製品の適用は適切か。					
5	道路付帯構造物設計	1) 用排水系統は適切か。 2) 流出量の算出は妥当か。 3) 通水量の算定は妥当か。 4) 用排水構造物の選定は適切か。					
		1) 舗装工の設計は適正か。(舗装材料、舗装構成、構築路床等) 2) 「舗装種別選定の手引き(令和3年12月)」の巻末2に示す「舗装種別チェックシート」等を用いて確認したか。					
6	小構造物設計	1) 生活環境(騒音、振動、日照等)への対応は適切か。 2) 自然環境(生態系等)への配慮は適切か。 3) 景観への対応は適切か。					
		1) 工区分けは適切か。(暫定施工、段階施工を含む) 2) 暫定施工、段階施工の考え方は適切か。					
10	施工計画	1) 関連協議による諸条件を確認したか。 2) 必要な関連協議は終了しているか。					
11	関連協議	1) コスト削減方策を検討しているか。 2) 新技術の導入について検討しているか。					
12	コスト削減	1) 変更契約に伴う、TECRISの登録は必要か。 2) 変更契約に伴う、変更業務計画書は提出してあるか。					
13	その他						

※太字ゴシックの項目は、発注者側においても特に留意が必要な項目を示す。

立体交差予備設計
成果品の照査項目一覧表
(照査 ③)

業務名： _____

発注者名： _____

受注者名： _____

照査の日付： 令和 ____ 年 ____ 月 ____ 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

成果品の照査項目一覧表（様式-3）

No.	照査項目	照査内容	照査③			確認資料	備考		
			該当対象	確認	確認日				
				照査を完了した項目について○印を記入				その日付を記入	
1	設計計算書	1) 打合せ事項は反映されているか。	▼	▼	▼	(例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	詳細設計照査要領の概要「6. その他記載等にわたっての留意事項」を参照		
		2) 設計条件・施工条件は適正に反映されているか。							
		3) インプットされた値は適正か。							
		4) 各検討設計ケースは適切か。							
		8) 施工を配慮した計算となっているか。							
		9) 流量計算書は適切か。							
		10) 設計基準値を技術指針等より引用している場合には、出典図書名およびページを明記しているか。							
		11) 今後の課題、留意点は整理されているか。							
		12) 図・表の表示は適正か。							
		1) 打合せ事項は反映されているか。							
		2) 縮尺、用紙サイズ等は共通仕様書、または、特記仕様書と整合しているか。							
		2	設計図	3) 全体一般図等に必要な項目が記載されているか。（函渠、擁壁等）、（設計条件、地質条件等）					
4) 工事にわたっての留意点を記載したか。									
5) 起点・終点は適正か。									
6) 主要構造物（橋梁、トンネル等）構造物（函渠、擁壁）等の全体一般図に必要な項目は記載されているか。（設計条件、地質条件）									
7) 表現方法は適切か。									
8) 解り易い注記がついているか。									
9) 設計条件・施工条件が記載されているか。									
10) 図面が明瞭に描かれているか。（構造物と寸法線の使いわけがなされているか。）									
11) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。									
1) 数量計算は、数量算出要領及び打合せ事項と整合しているか。（有効数字、位取り、単位、区分等）									
2) 数量計算に用いた寸法、数値、記号は図面と一致するか。									
3) 数量取りまとめは、種類毎、材料毎にあわせてまとめられているか。									
3	数量計算書	4) 数量計算の根拠となる資料（根拠図等）は作成しているか。							
		5) 施工区分及び段階施工、暫定施工を考慮した数量計算書となっているか。							
		6) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。							
		7) 数量全体総括、工区総括、ブロック総括等、打ち合わせと整合し、かつ転記ミスや集計ミスがないか。							
		1) 調査の記入は適切にされているか。							
		1) 必要な成果品仕様（電子納品等）、部数はあるか。							
		2) コスト削減留意書、リサイクル計画書を作成したか。							
		1) 担当事業課と調整されているか							
		2) 関係機関との協議用資料は作成したか。							
		3) 業務完了時のTECRISに 関して客先確認を行い登録したか。							
		4	用地幅杭調査						
			成果品						
5	その他								

山岳トンネル詳細設計の照査一覧表

山岳トンネル詳細設計
基本条件の照査項目一覧表
(照査 ①)

業 務 名 : _____

発 注 者 名 : _____

受 注 者 名 : _____

照査の日付 : 令和 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	照査項目	照査内容	照査①			確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要領の概要「6」、その他記載等に あたっての留意事項」を参照
			該当対象	確認	確認日		
				照査を完了した項目について○印を記入			
▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
1	設計の目的、主旨、範囲	1) 設計の目的、主旨、範囲を把握したか。 2) 地域構想等の関連する上位計画を把握したか。 3) 設計の内容、工程等について具体的に把握したか。特記仕様書との整合は確認したか。また、スケジュール管理表を提出したか。 4) 技術提案がある場合は、業務計画書に技術提案の内容が反映されているか。					
2	貸与資料の確認	1) 貸与資料は最新版であるか確認したか。不足点及び追加事項があるか確認したか。また、不足がある場合には、資料請求、追加調査等の提案を行ったか。 2) 申し送り事項を確認したか。 3) 最新の用地資料（縮絵、用地平面図等）はあるか。 4) 条件明示チェックシートは確認したか。					
3	現地踏査	1) 地形、地質、斜面状況、用・排水、現地、土地利用状況（用地）、保安林や土砂災害指定地等の各種指定区域の有無を把握したか。 2) 沿道状況（取付道路、取付坂路含む）、交通状況（自転車、歩行者含む）、道路利用状況（通学路指定の有無、歩道形式、乗入部含む）、河川状況等を把握したか。 3) 隣接既設構造物を把握し、その構造や隔離を確認したか。（鉄道、道路、河川、水路、送電線鉄塔等） 4) 気象条件を把握したか。 5) 掘削の影響が懸念される水源（井戸、ため池等）の有無を確認したか。 6) 社会環境状況を把握したか。（日照、騒音、振動、電波状況、水質汚濁、土壌汚染、動植物、周辺の水利利用状況等） また、環境調査等の資料の有無を確認し入手したか。 7) 台帳等を入力したうえで、支障物件の状況を把握したか。（地下埋設物：下水、水道、ガス、電力、NTT、通信、共同溝 等及び架空線、樹木、名勝、旧跡等） 8) 施工計画の条件を把握したか。（施工ヤード（施工機械配置、現道切り回りヤード等） 工事用水、濁水処理、工事用電力、工事用建物敷地、交通条件、進入路、周辺関連工事の進捗状況等） 9) 施工済み構造物について工事完成図面は確認したか。また現地状況は整合しているか。 10) 発注者と合同で現地踏査を実施したか。					
4	設計基本条件	1) 設計に使用する技術基準、参考図書や各自自治体における条例等を確認したか。また、最新版であるか確認したか。 2) 過年度成果における「申し送り事項」に対して確認し、対応方法について協議したか。 3) 設計条件は適正か。（道路規格、設計速度、設計交通量、重方向率及び大型車混入率、ISO貨高コンテナ指定路線、幅員構成等） 4) 地山区分判定用の資料は整っているか。また、岩石グループ、弾性波速度値、地山強度比ボーリングコアの状況等は明確となっているか。 5) 舗装種別及び舗装構成、舗装厚は妥当か。 6) 換気検討における基本条件（供用開始年度、計画交通量、規制速度等）は確認したか。 7) 非常用施設の等級区分（供用開始年度、計画交通量等）及び計画は適正か。 8) 工事に使用する水源及び水量は確保されているか。 9) 施工条件の基本は確認したか。（工程、施工ヤード、現道切廻し、ズリ運搬及び処理方式、受電点、給排水 等） 10) トンネル特殊条件の基本は確認したか。（地すべり、地下水、湧水、偏圧、未固結層、膨張性地山等） 11) 有害ガス（可燃性ガス）の有無を確認したか。 12) ズリの処理先及び処理方法（分別、用途）は妥当か。 13) 関連する最新の調査・設計成果と整合がとれているか。また、前段の設計を基に詳細設計（修正設計）を行う場合、過年度経緯を確認し成果の点検を行ったか。 14) 坑口の太陽光（西日 等）の対策は必要か。 15) 既往の地質調査業務報告書にて坑口部の落石、雪崩等の可能性および災害原因について把握されていることを確認したか。 16) トンネル内占用物の有無、内容を確認したか。 17) 施工時を含め、トンネル本体および坑門工に作用する荷重条件を確認したか。					
5	幾何構造、線形条件	1) 平面・縦断線形の採用値は適切か。また組み合わせは適正か。また、修正設計の場合、設計条件のどの部分が変更となったか確認したか。 2) 幅員構成、幅員変化は適正か。 3) 横断勾配は適切か。 4) 座標系と基準点は適正か。 5) 隣接工区（道路、橋梁等）との道路線形、横断面構成および片勾配などの整合性を確認したか。					
6	交差条件	1) 近接構造物等との隔離及び対応方法を検討したか。 2) 交差協議に関わる協議資料作成の種類と内容を確認したか。					
7	地盤条件（坑口部）	1) 坑口周辺の地形・地質の状況を把握したか。 2) 土質定数の設定は妥当か。 3) 支持力・地盤バネ値の設定は妥当か。 4) 特殊条件（地すべり、偏圧、支持力不足等）の設定は妥当か。 5) 地下水位の評価は妥当か。					
8	地形条件	1) 用地幅を確認したか。					
9	使用材料	1) 使用材料と規格、許容応力度は妥当か。					
10	施工条件	1) 工事時期と工程及び施工手順を確認したか。 2) 工区割りに関する既存資料を入手・確認したか。 3) 施工計画に関する既存資料を入手・確認したか。 4) 施工に支障となる旧施設の撤去条件を確認したか。 5) 近接構造物等への影響を考慮する必要があるか。					
11	関連機関との調整	1) 関連機関との調整内容を確認したか。 2) 地権者及び地元等の調整内容を確認したか。 3) 協議調整事項は設計に反映されているか。					
12	環境及び景観検討	1) 過年度成果で環境及び景観検討の必要性、方針、内容、範囲等が明示されていることを確認したか。 2) 環境上配慮すべき事項（騒音・振動、大気汚染、希少生物、濁水、自然由来の重金属等）の有無と、その対策方法を確認したか。					
13	コスト削減	1) 予備設計等で提案されたコスト削減設計留意書を確認したか。					
14	建設副産物対策	1) 予備設計等で作成されたリサイクル計画書を確認したか。					

山 岳 ト ン ネ ル 詳 細 設 計
細 部 条 件 の 照 査 目 一 覧 表
(照 査 ②)

業 務 名 : _____

発 注 者 名 : _____

受 注 者 名 : _____

照査の日付： 令和 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

細部条件の照査項目一覧表（様式－2）

No.	照査項目	照査内容	照査②			確認資料	備考
			該当対象	確認	確認日		
▼	▼	▼	▼	▼	▼	確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	詳細設計照査要領の概要「6. その他記載等に あたっての留意事項」を参照
1	協議関連	1) 協議は諸条件と合致しているか。					
2	設計基本条件	1) 新技術の採用について検討したか。					
3	一般図	1) 一般平面図、縦断面、横断面は妥当か。（様式－1設計基本条件との整合が図られているか）					
4	本体工	1) 内空断面は妥当か。（横断勾配に応じた建築限界、換気施設、照明施設、舗装厚、路面排水断面、非常用施設、内装、施工誤差余裕等）					
		2) 断面の基本型は適正か。（内空幅・内空形状・内空縦横比）					
		標準支保パターンへの適用は適切か。（吹付けコンクリート厚、ロックボルト長と配置及び本数、鋼アーチ支保工寸法、覆工厚、変形余裕量等）また特殊パターンは必要ないか。					
		4) 特殊断面（小断面、大断面、特殊地山における断面等）の支保パターンの構成は妥当か。					
		5) 補助工法及び特殊地山トンネルの対策は妥当か。					
		6) 坑口部の設定範囲（延長）、支保パターン、補助工法等が妥当か。					
		7) 補強配筋区間及び構造（鉄筋径、ピッチ、被り、アーチ部、インパート部等）は妥当か。					
		8) 非常駐車帯及び避難連絡路坑等の配置、形状、断面変化に対する設計は妥当か。					
		9) 掘削方式、掘削工法、坑内運搬方式は妥当か。					
5	坑門工及び明り巻き	1) 坑門周辺の法面処理、落石等の防災対策は妥当か。					
		2) 路肩処理や道路構造（法面・擁壁等）等、明かり部との整合性は妥当か。					
		3) 坑門工の設定範囲（延長）、位置、形式及び形状等は妥当か。					
		4) 計算手法は妥当か。					
		5) 構造モデル及び荷重条件は妥当か。					
		6) 材料の品質区分は妥当か。 ・コンクリート ・鉄筋等					
		7) 構造細目は妥当か。 ・鉄筋のかぶり ・鉄筋のピッチ ・継ぎ手長等					
		8) 坑門工と本体工との連結部の構造は妥当か。					
		1) 防水工の構造は妥当か。					
6	防水工、排水工	2) 裏面排水工の構造は妥当か。					
		3) 横断排水工の構造は妥当か。					
		4) 中央排水工の構造は妥当か。					
		5) 坑内の排水処理の接続は妥当か。					
		6) 集水側間隔は妥当か。					
		7) プレキャスト化、二次製品の使用などを配慮しているか。					
		8) トンネル洗浄水の処理対策は妥当か。					
		9) トンネルの中央配水管や側溝と、坑外排水施設との接続は妥当か、また、他の諸施設（設備配管、マンホール、占有物件）と競合していないか。					
		7	舗装工	1) 目地間隔は妥当か。			
2) 材料の品質区分は妥当か。 ・コンクリート ・鉄筋等							
8	非常用施設	1) 非常用施設、換気設備、照明用配管等の配置は妥当か。					
		2) 箱抜き位置、勾配、サイズ、補強は妥当か。					
		3) 埋設管路構造は、ケーブルの点検収納が可能な寸法、構造となっているか。					
		4) 電気設備の基本計画（電気室、受電方法等）が実施されていることを確認したか。また、調整が図られているか。					
9	施工計画	1) 打合せ事項は反映されているか。					
		2) 施工方法及び手順は妥当か。他工区と施工時期の調整は取れているか。また、支障物や埋設物の撤去・移設は考慮しているか。					
		3) 施工ヤードの位置及び配置計画及び面積は妥当か。					
		4) 工事用道路（長尺物等の搬入）の経路は妥当か。					
		5) 工区割は妥当か。					
10	仮設構造物	1) 換気設備計画は妥当か。					
		2) 工事用電力の確保及び受電位置は妥当か。					
		3) 給水設備計画は妥当か。					
		4) 仮設構造物（土留工、仮設橋、仮設ステージ 等）の計画は妥当か。					
		5) 施工中の計測計画は妥当か。					
		6) 坑口付近仮設計画は妥当か。					
		7) 電力会社から資料を入手して、フリッカー等の影響及び対策検討の必要性を確認したか。					
		8) 仮設電気設備設計（照明施設・受電施設など）は適正か。					
11	環境及び景観検討	1) 施工時の環境対策（汚水処理対策、濁水処理設備、騒音・振動等）は考慮されているか。また、完成後の環境対策の検討結果（騒音等）が考慮されているか。					
12	コスト縮減	1) 予備設計等で提案されたコスト縮減設計留意書について検討を行っているか。					
13	建設副産物対策	1) 建設副産物の処理方法は適正か。また、リサイクル計画書を考慮したか。					

山 岳 ト ン ネ ル 詳 細 設 計
成 果 品 の 照 査 目 一 覧 表
(照 査 ③)

業 務 名 : _____

発 注 者 名 : _____

受 注 者 名 : _____

照査の日付： 令和 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No.	照査項目	照査内容	照査②			確認資料 確認できる資料の名称、頁等を記入 (例) 関連基準類、過年度成果の該当頁 等	備考 詳細設計照査要領の概要「6」、その他記載等に あたっての留意事項」を参照
			該当対象	確認	確認日		
1	設計計算書	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 設計条件、施工条件は適正に反映されているか。 3) インプットされた値は適正か。 4) 各検討設計ケースは適切か。 5) 荷重、許容応力度の取り方は妥当か。 6) 計算結果は許容値を満たしているか。(安定計算、構造計算) 7) 荷重図、モーメント図等は描かれているか。 8) 施工を配慮した計算となっているか。 9) 応力度は許容値を満たしているか。また、単位は適正か。 10) 図・表の表示は適正か。					
2	設計図	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 縮尺、用紙サイズ等は共通仕様書、または、特記仕様書と整合されているか。 3) 必要寸法、部材形状及び寸法等にもれないか。 4) 全体一般図等に必要項目が記載されているか。(設計条件、地質条件、建築限界等) 5) 工事にあつての留意点を記載したか。 6) 使用材料及びその配置は計算書と一致しているか。 各設計図が相互に整合しているか。 7) ・一般平面図と縦断面図 ・構造図と配筋図 ・構造図と仮設図 8) 構造図の基本寸法、高さ関係は照合されているか。 9) 鉄筋の最大定尺長及び継手(圧接、重ね継手)は適正か。 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。(特に応力計算、安定計算等の結果が適用範囲も含めて整合しているか。) ・かいぶり ・壁厚 ・鉄筋(径、ピッチ、使用材料、ラップ位置、ラップ長、主鉄筋の定着長、段落し位置、ガス圧接位置) ・鋼材形状、寸法 ・使用材料 ・その他 10) 鉄筋同士の干渉はないか。または、鉄筋と干渉する部材がないか。箱抜き補強が必要な場合の配筋は妥当か。 11) 施工に配慮した設計図となっているか。 12) 構造詳細は適用基準及び打合せ事項と整合しているか。 13) 取り合い部の構造寸法は適正か。 14) レイアウト、配筋、文字サイズ等は適切か。 15) 解り易い注記が記載されているか。 16) 図面が明瞭に描かれているか。(構造物と寸法線の使いわけがなされているか。) 17) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。 18) 起点・終点は明確となっているか。					
3	数量計算書	1) 数量計算は、数量算出要領及び打合せ事項と整合しているか。(有効数字、位取り、単位、区分等) 2) 数量計算に用いた寸法、数値、記号は図面と一致するか。 3) 数量取りまとめは、種類毎、材料毎にあわせてまとめられているか。 4) 数量計算の根拠となる資料(根拠図等)は作成しているか。 5) 施工計画を反映した数量計算となっているか。 6) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。 7) 数量全体総括、工区総括等が打ち合わせ内容と整合し、かつ、転記ミスや集計ミスがないか。 8) 使用する材料の規格及び強度等は記入されているか。					
4	施工計画書	1) 施工方法、施工順序が妥当であるか。(掘削方式、掘削工法、坑内運搬方式等) 2) 留意すべき施工条件が反映されているか。 3) 工事用仮設備計画は妥当か。(工事中の換気、給水、排水、濁水処理、工事用電力、すり置き場等) 4) 経済性、安全性が配慮されているか。 5) 工事中の環境面が配慮されているか。 6) 全体事業計画との整合が図られているか。 7) 関係法令を遵守した計画になっているか。 1) 設計調査の記入は適正になされているか。					
5	設計調査	2) マクロ的に見て問題ないか。(設計条件、幾何条件、主要寸法、主要数量(例、m2当たりコンクリート量、m3当たり鉄筋量、m2当たり鋼重等)を類似例、一般例と比較する。)					
6	設計概要書	1) 設計概要書は作成したか。					
7	赤黄チェック	1) 赤黄チェック等により照査したか。					
8	報告書	1) 報告書の構成は妥当か。また、特記仕様書の内容を満足しているか。 2) 打合せや協議事項は反映されているか。 3) 設計条件の考え方が整理されているか。 4) 比較検討の結果が整理されているか。 5) 設計思想の設定と考え方が妥当であるか。 6) 「電子納品要領(案)」に基づいて適正に作成したか。 7) 今後の課題、施工上の申し送り事項等が整理されているか。					
9	コスト縮減	1) 実施したコスト縮減効果は整理したか。					
10	建設副産物対策	1) リサイクル計画書を作成しているか。					
11	TECRIS	1) TECRISの内容について、発注者と確認を行ったか。					